

玄海原子力発電所3号炉、4号炉審査資料

資料番号

TTG-055

提出年月日

2023年11月1日

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉

標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた
基礎地盤及び周辺斜面の安定性について
(特定重大事故等対処施設を除く)
【補足説明資料】

2023年11月1日

九州電力株式会社



余 白

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
<p>7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性</p> <p>7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価</p> <p>7.6.1.1 評価方針</p> <p>設計基準対象施設のうち、耐震設計上の重要度 分類Sクラスの機器・系統及びそれらを支持する建物・構築物（以下「対象施設」という。）が設置される地盤（以下「基礎地盤」という。）について、基準地震動による地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>基礎地盤の地震時の安定性については、想定すべり線におけるすべり安全率及び支持力並びに基礎底面の傾斜により評価する。</p> <p>また、地震発生に伴う周辺地盤の変状による不等沈下、液状化、揺すり込み沈下及び地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等により対象施設の安全機能に重大な影響を及ぼさないことを確認する。</p> <p>7.6.1.2 評価方法</p> <p>7.6.1.2.1 解析条件</p> <p>(1) 解析断面</p> <p>解析の対象とする断面は、基礎地盤の地質構造及び対象施設の配置を考慮し、対象施設を包括するような以下の3断面とする。</p> <p>① 3号炉心及び4号炉心を通る断面（X_{34}— X_{34}' 断面）</p> <p>② 3号炉心を通る断面（Y_3— Y_3' 断面）</p>	<p>7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性</p> <p>7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価</p>	<p>7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性</p> <p>7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価</p>	<p>7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性</p> <p>7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価</p> <p>7.6.1.1 評価方針</p> <p>設計基準対象施設のうち、耐震設計上の重要度 分類Sクラスの機器・系統及びそれらを支持する建物・構築物（以下「対象施設」という。）が設置される地盤（以下「基礎地盤」という。）について、基準地震動による地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>基礎地盤の地震時の安定性については、想定すべり線におけるすべり安全率及び支持力並びに基礎底面の傾斜により評価する。</p> <p>また、地震発生に伴う周辺地盤の変状による不等沈下、液状化、揺すり込み沈下及び地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等により対象施設の安全機能に重大な影響を及ぼさないことを確認する。</p> <p>7.6.1.2 評価方法</p> <p>7.6.1.2.1 解析条件</p> <p>(1) 解析断面</p> <p>解析の対象とする断面は、基礎地盤の地質構造及び対象施設の配置を考慮し、対象施設を包括するような以下の3断面とする。</p> <p>① 3号炉心及び4号炉心を通る断面（X_{34}— X_{34}' 断面）</p> <p>② 3号炉心を通る断面（Y_3— Y_3' 断面）</p>	<p>D 全文を記載する方針に変更（以下、今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所は同じ）</p>

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>③ 4号炉心を通る断面 (Y₄-Y₄' 断面) 解析断面位置図を第7.6.1.1図に示す。</p> <p>(2) 解析モデル</p> <p>a. 解析用地盤モデル 岩盤部の速度層区分は、PS検層結果に基づき設定する。有限要素法解析モデルは、岩盤分類図を基に作成する。速度層断面図を第7.6.1.2図に、解析用要素分割図を第7.6.1.3図に示す。</p> <p>b. 解析用建屋モデル 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋及びタービン建屋の解析用建屋モデルは、それぞれの多質点系モデルを基に作成する。</p> <p>c. 境界条件 動的解析における境界条件は、モデル下端を粘性境界、側方をエネルギー伝達境界とする。また、常時応力を算定する静的解析における境界条件は、モデル下端を固定境界、側方を鉛直ローラ境界とする。境界条件を第7.6.1.4図に示す。</p> <p>(3) 解析用物性値 解析用物性値は、既往の試験結果等に基づき設定する。解析用物性値設定の考え方を第7.6.1.1表に、解析用物性値を第7.6.1.2表に示す。</p> <p>(4) 入力地震動 入力地震動は、解放基盤表面で定義される基準地震動を、1次元波動論によって解析モデルの入力位置で評価したものを採用</p>			<p>③ 4号炉心を通る断面 (Y₄-Y₄' 断面) 解析断面位置図を第7.6.1.1図に示す。</p> <p>(2) 解析モデル</p> <p>a. 解析用地盤モデル 岩盤部の速度層区分は、PS検層結果に基づき設定する。有限要素法解析モデルは、岩盤分類図を基に作成する。速度層断面図を第7.6.1.2図に、解析用要素分割図を第7.6.1.3図に示す。</p> <p>b. 解析用建屋モデル 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋及びタービン建屋の解析用建屋モデルは、それぞれの多質点系モデルを基に作成する。</p> <p>c. 境界条件 動的解析における境界条件は、モデル下端を粘性境界、側方をエネルギー伝達境界とする。また、常時応力を算定する静的解析における境界条件は、モデル下端を固定境界、側方を鉛直ローラ境界とする。境界条件を第7.6.1.4図に示す。</p> <p>(3) 解析用物性値 解析用物性値は、既往の試験結果等に基づき設定する。解析用物性値設定の考え方を第7.6.1.1表に、解析用物性値を第7.6.1.2表に示す。</p> <p>(4) 入力地震動 入力地震動は、解放基盤表面で定義される基準地震動を、1次元波動論によって解析モデルの入力位置で評価したものを採用</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>る。入力地震動の考え方を第7.6.1.5図に、基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトルを第7.6.1.6図に示す。</p> <p>(5) 地下水位 解析用地下水位は、地表面あるいは建屋基礎上端に設定する。解析用地下水位を第7.6.1.7図に示す。</p> <p>7.6.1.2.2 解析手法 基準地震動に対する地震応答解析を2次元有限要素法解析により行う。地震応答解析は、周波数応答解析手法を用い、等価線形化法により動せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ依存性を必要に応じて考慮する。</p> <p>地震時の応力は、地震応答解析による動的応力と、静的有限要素法解析による常時応力を重ね合わせるにより求める。動的応力は、水平地震動及び鉛直地震動を同時加振した場合の応答を考慮し、常時応力は基礎掘削時の地盤の自重計算により求まる初期応力及び建屋、埋戻土の荷重を考慮して求める。</p> <p>なお、弱層等における応力の発生状況から、周辺への進行性破壊についての検討が必要と考えられる場合は、地震応答解析において最小すべり安全率を示す時刻の応力状態に対して、荷重伝達法による応力再配分を静的有限要素法解析により行う。</p> <p>基礎地盤の安定性評価フローを第7.6.1.8図に示す。</p>			<p>る。入力地震動の考え方を第7.6.1.5図に、基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトルを第7.6.1.6図に示す。</p> <p>(5) 地下水位 解析用地下水位は、地表面あるいは建屋基礎上端に設定する。解析用地下水位を第7.6.1.7図に示す。</p> <p>7.6.1.2.2 解析手法 基準地震動に対する地震応答解析を2次元有限要素法解析により行う。地震応答解析は、周波数応答解析手法を用い、等価線形化法により動せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ依存性を必要に応じて考慮する。</p> <p>地震時の応力は、地震応答解析による動的応力と、静的有限要素法解析による常時応力を重ね合わせるにより求める。動的応力は、水平地震動及び鉛直地震動を同時加振した場合の応答を考慮し、常時応力は基礎掘削時の地盤の自重計算により求まる初期応力及び建屋、埋戻土の荷重を考慮して求める。</p> <p>なお、弱層等における応力の発生状況から、周辺への進行性破壊についての検討が必要と考えられる場合は、地震応答解析において最小すべり安全率を示す時刻の応力状態に対して、荷重伝達法による応力再配分を静的有限要素法解析により行う。</p> <p>基礎地盤の安定性評価フローを第7.6.1.8図に示す。</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>7.6.1.2.3 評価内容</p> <p>(1) すべり安全率</p> <p>すべり安全率は、想定したすべり線上の応力状態を基に、すべり線上のせん断抵抗力の和をすべり線上のせん断力の和で除して求める。</p> <p>想定すべり線は、基礎底面沿いのすべり線、断層・シーム沿いのすべり線及び応力状態や局所安全率を考慮したすべり線について検討する。断層・シーム沿いの想定すべり線については、断層・シームの走向・傾斜を踏まえ、適切に設定する。</p> <p>なお、せん断強度に達する要素では残留強度を用い、引張応力が発生する要素ではすべり線の垂直応力が圧縮の場合は残留強度、引張の場合は強度をゼロとしてすべり安全率を算定する。</p> <p>(2) 支持力</p> <p>全ての対象施設は強度が同程度の岩種・岩級の地盤に支持されていることから、施設の規模及び重量を踏まえ、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋で評価を代表させる。</p> <p>原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面における地震時の最大接地圧を求める。</p> <p>(3) 基礎底面の傾斜</p> <p>基礎底面の傾斜についても、支持力と同様に、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋で評価を代表させる。</p> <p>基礎底面の傾斜は、原子炉格納容器及び</p>			<p>7.6.1.2.3 評価内容</p> <p>(1) すべり安全率</p> <p>すべり安全率は、想定したすべり線上の応力状態を基に、すべり線上のせん断抵抗力の和をすべり線上のせん断力の和で除して求める。</p> <p>想定すべり線は、基礎底面沿いのすべり線、断層・シーム沿いのすべり線及び応力状態や局所安全率を考慮したすべり線について検討する。断層・シーム沿いの想定すべり線については、断層・シームの走向・傾斜を踏まえ、適切に設定する。</p> <p>なお、せん断強度に達する要素では残留強度を用い、引張応力が発生する要素ではすべり線の垂直応力が圧縮の場合は残留強度、引張の場合は強度をゼロとしてすべり安全率を算定する。</p> <p>(2) 支持力</p> <p>全ての対象施設は強度が同程度の岩種・岩級の地盤に支持されていることから、施設の規模及び重量を踏まえ、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋で評価を代表させる。</p> <p>原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面における地震時の最大接地圧を求める。</p> <p>(3) 基礎底面の傾斜</p> <p>基礎底面の傾斜についても、支持力と同様に、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋で評価を代表させる。</p> <p>基礎底面の傾斜は、原子炉格納容器及び</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書(令和3年4月28日許可)	当初申請書(令和3年8月23日申請)	前回補正申請書(令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
<p>原子炉周辺建屋基礎底面両端それぞれの鉛直方向の変位の差を基礎底面幅で除して求める。</p> <p>(4) 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 周辺地盤の変状が対象施設の安全機能に重大な影響を及ぼさないことを地質調査結果、設計図書等により確認する。</p> <p>(5) 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 敷地内及び敷地近傍には、将来活動する可能性のある断層等が分布しないことを確認していることから、敷地において地殻の広域的な変形による著しい地盤の傾斜が生じることはないが、敷地に比較的近い城山南断層及び竹木場断層の活動に伴い生じる地盤の傾斜について評価を実施する。地殻変動量はWang et al.(2003)⁽¹⁾の手法により算出する。</p> <p>7.6.1.3 評価結果 7.6.1.3.1 すべり安全率 想定すべり線におけるすべり安全率を第7.6.1.3表に示す。最小すべり安全率は、$X_{34}-X_{34}'$断面で2.6、Y_3-Y_3'断面で3.6、Y_4-Y_4'断面で2.8であり、いずれも評価基準値1.5を上回る。 また、最小すべり安全率を示すすべり線に対し、応力再配分を実施した場合のすべり安全率及びすべりに対する抵抗力に最も寄与する岩盤の強度特性のばらつきを考慮</p>	<p>7.6.1.3 評価結果 7.6.1.3.1 すべり安全率 想定すべり線におけるすべり安全率を第7.6.1.3表に示す。最小すべり安全率は、$X_{34}-X_{34}'$断面で2.6、Y_3-Y_3'断面で3.6、Y_4-Y_4'断面で2.8であり、いずれも評価基準値1.5を上回る。 また、最小すべり安全率を示すすべり線に対し、応力再配分を実施した場合のすべり安全率及びすべりに対する抵抗力に最も寄与する岩盤の強度特性のばらつきを考慮</p>	<p>7.6.1.3 評価結果 7.6.1.3.1 すべり安全率 想定すべり線におけるすべり安全率を第7.6.1.3表に示す。最小すべり安全率は、$X_{34}-X_{34}'$断面で2.6、Y_3-Y_3'断面で3.6、Y_4-Y_4'断面で2.8であり、いずれも評価基準値1.5を上回る。 また、最小すべり安全率を示すすべり線に対し、応力再配分を実施した場合のすべり安全率及びすべりに対する抵抗力に最も寄与する岩盤の強度特性のばらつきを考慮</p>	<p>原子炉周辺建屋基礎底面両端それぞれの鉛直方向の変位の差を基礎底面幅で除して求める。</p> <p>(4) 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 周辺地盤の変状が対象施設の安全機能に重大な影響を及ぼさないことを地質調査結果、設計図書等により確認する。</p> <p>(5) 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 敷地内及び敷地近傍には、将来活動する可能性のある断層等が分布しないことを確認していることから、敷地において地殻の広域的な変形による著しい地盤の傾斜が生じることはないが、敷地に比較的近い城山南断層及び竹木場断層の活動に伴い生じる地盤の傾斜について評価を実施する。地殻変動量はWang et al.(2003)⁽¹⁾の手法により算出する。</p> <p>7.6.1.3 評価結果 7.6.1.3.1 すべり安全率 想定すべり線におけるすべり安全率を第7.6.1.3表に示す。最小すべり安全率は、$X_{34}-X_{34}'$断面で2.6、Y_3-Y_3'断面で3.6、Y_4-Y_4'断面で2.8であり、いずれも評価基準値1.5を上回る。 また、最小すべり安全率を示すすべり線に対し、応力再配分を実施した場合のすべり安全率及びすべりに対する抵抗力に最も寄与する岩盤の強度特性のばらつきを考慮</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書(令和3年4月28日許可)	当初申請書(令和3年8月23日申請)	前回補正申請書(令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
<p>した場合(岩盤強度の代表値$-1 \times$標準偏差(σ))のすべり安全率は、いずれも評価基準値1.5を上回る。</p> <p>以上のことから、基礎地盤はすべりに対して十分な安全性を有している。</p>	<p>した場合(岩盤強度の代表値$-1 \times$標準偏差(σ))のすべり安全率は、いずれも評価基準値1.5を上回る。</p> <p>以上のことから、基礎地盤はすべりに対して十分な安全性を有している。</p>	<p>した場合(岩盤強度の代表値$-1 \times$標準偏差(σ))のすべり安全率は、いずれも評価基準値1.5を上回る。</p> <p>以上のことから、基礎地盤はすべりに対して十分な安全性を有している。</p>	<p>した場合(岩盤強度の代表値$-1 \times$標準偏差(σ))のすべり安全率は、いずれも評価基準値1.5を上回る。</p> <p>以上のことから、基礎地盤はすべりに対して十分な安全性を有している。</p>	
<p>7.6.1.3.2 支持力</p> <p>地質調査結果によると、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎地盤は主として砂岩及び頁岩の③級以上の岩盤で構成されており、支持力試験結果から、極限支持力度は$13.7\text{N}/\text{mm}^2$以上と評価できる。原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面の地震時最大接地圧は、$X_{34}-X_{34}'$断面で$2.01\text{N}/\text{mm}^2$、Y_3-Y_3'断面で$1.67\text{N}/\text{mm}^2$、Y_4-Y_4'断面で$1.89\text{N}/\text{mm}^2$であり、基礎地盤は十分な支持力を有している。</p>	<p>7.6.1.3.2 支持力</p> <p>地質調査結果によると、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎地盤は主として砂岩及び頁岩の③級以上の岩盤で構成されており、支持力試験結果から、極限支持力度は$13.7\text{N}/\text{mm}^2$以上と評価できる。原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面の地震時最大接地圧は、$X_{34}-X_{34}'$断面で$2.01\text{N}/\text{mm}^2$、Y_3-Y_3'断面で$1.69\text{N}/\text{mm}^2$、Y_4-Y_4'断面で$1.89\text{N}/\text{mm}^2$であり、基礎地盤は十分な支持力を有している。</p>	<p>7.6.1.3.2 支持力</p> <p>地質調査結果によると、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎地盤は主として砂岩及び頁岩の③級以上の岩盤で構成されており、支持力試験結果から、極限支持力度は$13.7\text{N}/\text{mm}^2$以上と評価できる。原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面の地震時最大接地圧は、$X_{34}-X_{34}'$断面で$2.01\text{N}/\text{mm}^2$、Y_3-Y_3'断面で$1.67\text{N}/\text{mm}^2$、Y_4-Y_4'断面で$1.89\text{N}/\text{mm}^2$であり、基礎地盤は十分な支持力を有している。</p>	<p>7.6.1.3.2 支持力</p> <p>地質調査結果によると、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎地盤は主として砂岩及び頁岩の③級以上の岩盤で構成されており、支持力試験結果から、極限支持力度は$13.7\text{N}/\text{mm}^2$以上と評価できる。原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面の地震時最大接地圧は、$X_{34}-X_{34}'$断面で$2.01\text{N}/\text{mm}^2$、Y_3-Y_3'断面で$1.67\text{N}/\text{mm}^2$、Y_4-Y_4'断面で$1.89\text{N}/\text{mm}^2$であり、基礎地盤は十分な支持力を有している。</p>	<p>B-1 確定した Ss-6 による評価結果の反映 ※Y_3-Y_3'断面の支持力の結果について、当初申請時には Ss-6 の結果が最大であったが、確定した Ss-6 の結果は既許可の結果を下回るため、今回補正申請書と既許可申請書は同値</p>
<p>7.6.1.3.3 基礎底面の傾斜</p> <p>原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜を第7.6.1.4表に示す。原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面の傾斜は、$X_{34}-X_{34}'$断面で$1/15,000$、Y_3-Y_3'断面で$1/125,000$、Y_4-Y_4'断面で$1/63,000$であり、いずれも評価の目安である$1/2,000$を十分に下回っていることから、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋の安全機能が損なわれるものではない。</p>	<p>7.6.1.3.3 基礎底面の傾斜</p> <p>原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜を第7.6.1.4表に示す。原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面の傾斜は、$X_{34}-X_{34}'$断面で$1/15,000$、Y_3-Y_3'断面で$1/111,000$、Y_4-Y_4'断面で$1/63,000$であり、いずれも評価の目安である$1/2,000$を十分に下回っていることから、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋の安全機能が損なわれるものではない。</p>	<p>7.6.1.3.3 基礎底面の傾斜</p> <p>原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜を第7.6.1.4表に示す。原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面の傾斜は、$X_{34}-X_{34}'$断面で$1/15,000$、Y_3-Y_3'断面で$1/111,000$、Y_4-Y_4'断面で$1/63,000$であり、いずれも評価の目安である$1/2,000$を十分に下回っていることから、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋の安全機能が損なわれるものではない。</p>	<p>7.6.1.3.3 基礎底面の傾斜</p> <p>原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜を第7.6.1.4表に示す。原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋基礎底面の傾斜は、$X_{34}-X_{34}'$断面で$1/15,000$、Y_3-Y_3'断面で$1/111,000$、Y_4-Y_4'断面で$1/63,000$であり、いずれも評価の目安である$1/2,000$を十分に下回っていることから、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋の安全機能が損なわれるものではない。</p>	<p>A-1 Ss-6の追加に伴う変更 ※Y_3-Y_3'断面の基礎底面の傾斜の結果について、当初申請時と今回補正時における評価結果は同値</p>
<p>7.6.1.3.4 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響</p>	<p>7.6.1.3.4 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響</p>	<p>7.6.1.3.4 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響</p>	<p>7.6.1.3.4 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書(令和3年4月28日許可)	当初申請書(令和3年8月23日申請)	前回補正申請書(令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
<p>対象施設は直接又はマンメイドロックを介して岩着する設計としていることから、揺すり込み沈下や液状化による不等沈下の影響を受けるおそれはない。</p> <p>7.6.1.3.5 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響</p> <p>地殻変動による地盤の最大傾斜は1/31,000であり、地震動による傾斜との重量を考慮した場合においても、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋の基礎底面の最大傾斜は1/18,000であり、評価基準値の目安である1/2,000を下回っていることから、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋の機能が損なわれるものではない。</p> <p>7.6.2 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の周辺斜面の安定性評価</p> <p>安定性評価の対象とする斜面は、対象施設と周辺斜面の離間距離、斜面規模及び斜面の性状に基づき抽出する。</p> <p>周辺斜面の安定性評価においては、基準地震動による地震力に対して、対象施設の安全機能に重大な影響を与えるような崩壊を起こさないことを確認するため、すべりに対する安定性を評価する。</p> <p>7.6.2.1 評価方針</p> <p>「原子力発電所耐震設計技術指針 JEA4601-1987」(2)では、斜面崩壊事例の到達距離に関する分析結果に基づき、安定性評価の対象とすべき斜面は、斜面法尻と対象施設の離間距離が約50m以内あるいは</p>	<p>対象施設は直接又はマンメイドロックを介して岩着する設計としていることから、揺すり込み沈下や液状化による不等沈下の影響を受けるおそれはない。</p> <p>7.6.1.3.5 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響</p> <p>地殻変動による地盤の最大傾斜は1/31,000であり、地震動による傾斜との重量を考慮した場合においても、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋の基礎底面の最大傾斜は1/18,000であり、評価基準値の目安である1/2,000を下回っていることから、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋の機能が損なわれるものではない。</p> <p>7.6.2 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の周辺斜面の安定性評価</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">(削 除)</p> <p>7.6.2.1 評価方針</p> <p>対象施設については、基準地震動による地震力によって生じるおそれがある周辺の斜面の崩壊に対して、その安全機能が損なわれるおそれがない場所に設置する。</p>	<p>対象施設は直接又はマンメイドロックを介して岩着する設計としていることから、揺すり込み沈下や液状化による不等沈下の影響を受けるおそれはない。</p> <p>7.6.1.3.5 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響</p> <p>地殻変動による地盤の最大傾斜は1/31,000であり、地震動による傾斜との重量を考慮した場合においても、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋の基礎底面の最大傾斜は1/18,000であり、評価基準値の目安である1/2,000を下回っていることから、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋の機能が損なわれるものではない。</p> <p>7.6.2 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の周辺斜面の安定性評価</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">(削 除)</p> <p>7.6.2.1 評価方針</p> <p>対象施設については、基準地震動による地震力によって生じるおそれがある周辺の斜面の崩壊に対して、その安全機能が損なわれるおそれがない場所に設置する。</p>	<p>対象施設は直接又はマンメイドロックを介して岩着する設計としていることから、揺すり込み沈下や液状化による不等沈下の影響を受けるおそれはない。</p> <p>7.6.1.3.5 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響</p> <p>地殻変動による地盤の最大傾斜は1/31,000であり、地震動による傾斜との重量を考慮した場合においても、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋の基礎底面の最大傾斜は1/18,000であり、評価基準値の目安である1/2,000を下回っていることから、原子炉格納容器及び原子炉周辺建屋の機能が損なわれるものではない。</p> <p>7.6.2 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の周辺斜面の安定性評価</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">(削 除)</p> <p>7.6.2.1 評価方針</p> <p>対象施設については、基準地震動による地震力によって生じるおそれがある周辺の斜面の崩壊に対して、その安全機能が損なわれるおそれがない場所に設置する。</p>	<p>C 記載を見直した箇所</p>

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>斜面高さの約 1.4 倍以内の斜面としている。また、土砂災害防止法(3)では、急傾斜地の崩壊等が発生した場合の土砂災害警戒区域は、急傾斜地下端からの水平距離が急傾斜地の高さの2.0倍以内又は当該急傾斜地の高さの2.0倍が50mを超える場合は50m以内としている。</p> <p>第7.6.2.1図に斜面法尻から50mの範囲及び斜面高さの1.4倍の範囲を示す。同図より、対象施設の周辺には、安定性評価の対象とすべき斜面がないことを確認した。</p>	<p>7.6.2.2 評価方法</p> <p>安定性評価の対象とする斜面は、対象施設と周辺斜面の離間距離、水平面とのなす角度及び斜面高さに基づき抽出する。</p> <p>「原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG4601-1987」⁽²⁾では、斜面崩壊事例の到達距離に関する分析結果に基づき、安定性評価の対象とすべき斜面は、斜面法尻と対象施設の離間距離が約50m以内あるいは斜面高さの約1.4倍以内の斜面としている。また、土砂災害防止法⁽³⁾では、急傾斜地の崩壊等が発生した場合の土砂災害警戒区域は、急傾斜地下端からの水平距離が急傾斜地の高さの2.0倍以内又は当該急傾斜地の高さの2.0倍が50mを超える場合は50m以内としている。</p> <p>第7.6.2.1図に斜面法尻から50mの範囲及び斜面高さの1.4倍の範囲を示す。同図より、対象施設の周辺には、安定性評価の対象とすべき斜面がないことを確認した。</p>	<p>7.6.2.2 評価方法</p> <p>安定性評価の対象とする斜面は、対象施設と周辺斜面の離間距離、水平面とのなす角度及び斜面高さに基づき抽出する。</p> <p>「原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG4601-1987」⁽²⁾では、斜面崩壊事例の到達距離に関する分析結果に基づき、安定性評価の対象とすべき斜面は、斜面法尻と対象施設の離間距離が約50m以内あるいは斜面高さの約1.4倍以内の斜面としている。また、土砂災害防止法⁽³⁾では、急傾斜地の崩壊等が発生した場合の土砂災害警戒区域は、急傾斜地下端からの水平距離が急傾斜地の高さの2.0倍以内又は当該急傾斜地の高さの2.0倍が50mを超える場合は50m以内としている。</p> <p>第7.6.2.1図に斜面法尻から50mの範囲及び斜面高さの1.4倍の範囲を示す。同図より、対象施設の周辺には、安定性評価の対象とすべき斜面がないことを確認した。</p>	<p>7.6.2.2 評価方法</p> <p>安定性評価の対象とする斜面は、対象施設と周辺斜面の離間距離、水平面とのなす角度及び斜面高さに基づき抽出する。</p> <p>「原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG4601-1987」⁽²⁾では、斜面崩壊事例の到達距離に関する分析結果に基づき、安定性評価の対象とすべき斜面は、斜面法尻と対象施設の離間距離が約50m以内あるいは斜面高さの約1.4倍以内の斜面としている。また、土砂災害防止法⁽³⁾では、急傾斜地の崩壊等が発生した場合の土砂災害警戒区域は、急傾斜地下端からの水平距離が急傾斜地の高さの2.0倍以内又は当該急傾斜地の高さの2.0倍が50mを超える場合は50m以内としている。</p> <p>第7.6.2.1図に斜面法尻から50mの範囲及び斜面高さの1.4倍の範囲を示す。同図より、対象施設の周辺には、安定性評価の対象とすべき斜面がないことを確認した。</p>	
<p>7.6.3 常設耐震重要重大事故防止設備等が設置される重大事故等対処施設の基礎地盤の安定性評価</p> <p>7.6.3.1 評価方針</p> <p>常設耐震重要重大事故防止設備又は常設重大事故緩和設備が設置される建物・構築物の地盤について、基準地震動による地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>常設耐震重要重大事故防止設備又は常設重大事故緩和設備が設置される建物・構築物のうち、設計基準対象施設における耐震</p>	<p>7.6.3 常設耐震重要重大事故防止設備等が設置される重大事故等対処施設の基礎地盤の安定性評価</p>	<p>7.6.3 常設耐震重要重大事故防止設備等が設置される重大事故等対処施設の基礎地盤の安定性評価</p>	<p>7.6.3 常設耐震重要重大事故防止設備等が設置される重大事故等対処施設の基礎地盤の安定性評価</p> <p>7.6.3.1 評価方針</p> <p>常設耐震重要重大事故防止設備又は常設重大事故緩和設備が設置される建物・構築物の地盤について、基準地震動による地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>常設耐震重要重大事故防止設備又は常設重大事故緩和設備が設置される建物・構築物のうち、設計基準対象施設における耐震</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書(令和3年4月28日許可)	当初申請書(令和3年8月23日申請)	前回補正申請書(令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
<p>設計上の重要度分類Sクラスの施設又はSクラスの機器・系統を支持・内包する建物・構築物を兼ねていない施設(以下「対象施設」という。)としては、取水口、取水管路、大容量空冷式発電機エリア基礎、大容量空冷式発電機用燃料タンク基礎、緊急時対策所機能に係る設備を支持・内包する緊急時対策棟(緊急時対策所用発電機用燃料油貯蔵タンク・給油ポンプ室を含む。)及び代替緊急時対策所が抽出される。第7.6.3.1図に対象施設配置図を示す。</p> <p>このうち、取水口、取水管路、大容量空冷式発電機エリア基礎及び大容量空冷式発電機用燃料タンク基礎については、設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の評価断面に含まれており、この評価断面に含まれない施設としては、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所が抽出される。</p> <p>ここでは、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所が設置される地盤(以下「基礎地盤」という。)について、基準地震動による地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>基礎地盤の地震時の安定性評価の考え方は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>7.6.3.2 評価方法 7.6.3.2.1 解析条件 (1) 解析断面 緊急時対策棟及び代替緊急時対策所付近のボーリング調査位置図を第7.6.3.2図</p>	<p>7.6.3.2 評価方法 7.6.3.2.1 解析条件 (1) 解析断面 緊急時対策棟及び代替緊急時対策所付近のボーリング調査位置図を第7.6.3.2図</p>	<p>7.6.3.2 評価方法 7.6.3.2.1 解析条件 (1) 解析断面 緊急時対策棟及び代替緊急時対策所付近のボーリング調査位置図を第7.6.3.2図</p>	<p>設計上の重要度分類Sクラスの施設又はSクラスの機器・系統を支持・内包する建物・構築物を兼ねていない施設(以下「対象施設」という。)としては、取水口、取水管路、大容量空冷式発電機エリア基礎、大容量空冷式発電機用燃料タンク基礎、緊急時対策所機能に係る設備を支持・内包する緊急時対策棟(緊急時対策所用発電機用燃料油貯蔵タンク・給油ポンプ室を含む。)及び代替緊急時対策所が抽出される。第7.6.3.1図に対象施設配置図を示す。</p> <p>このうち、取水口、取水管路、大容量空冷式発電機エリア基礎及び大容量空冷式発電機用燃料タンク基礎については、設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の評価断面に含まれており、この評価断面に含まれない施設としては、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所が抽出される。</p> <p>ここでは、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所が設置される地盤(以下「基礎地盤」という。)について、基準地震動による地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>基礎地盤の地震時の安定性評価の考え方は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>7.6.3.2 評価方法 7.6.3.2.1 解析条件 (1) 解析断面 緊急時対策棟及び代替緊急時対策所付近のボーリング調査位置図を第7.6.3.2図</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>に、地質断面位置図を第7.6.3.3図に、鉛直岩盤分類図を第7.6.3.4図に示す。</p> <p>解析の対象とする断面は、基礎地盤の地質構造、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の配置並びに緊急時対策棟を構成する建屋の規模を考慮し、以下の3断面とする。</p> <p>① 緊急時対策棟を通る断面 ($Y_M - Y_M'$ 断面)</p> <p>② 代替緊急時対策所を通る断面 ($X_{DK} - X_{DK}'$ 断面)</p> <p>③ 代替緊急時対策所を通る断面 ($Y_{DK} - Y_{DK}'$ 断面)</p> <p>解析断面位置を第7.6.3.3図に示す。</p> <p>(2) 解析モデル</p> <p>a. 解析用地盤モデル</p> <p>解析用地盤モデルの作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。速度層断面図を第7.6.3.5図に、解析用要素分割図を第7.6.3.6図に示す。</p> <p>b. 解析用建屋モデル</p> <p>緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の解析用建屋モデルは、建屋諸元等を基に作成する。</p> <p>c. 境界条件</p> <p>境界条件の設定方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(3) 解析用物性値</p> <p>解析用物性値は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安</p>	<p>に、地質断面位置図を第7.6.3.3図に、鉛直岩盤分類図を第7.6.3.4図に示す。</p> <p>解析の対象とする断面は、基礎地盤の地質構造、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の配置並びに緊急時対策棟を構成する建屋の規模を考慮し、以下の3断面とする。</p> <p>① 緊急時対策棟を通る断面 ($Y_M - Y_M'$ 断面)</p> <p>② 代替緊急時対策所を通る断面 ($X_{DK} - X_{DK}'$ 断面)</p> <p>③ 代替緊急時対策所を通る断面 ($Y_{DK} - Y_{DK}'$ 断面)</p> <p>解析断面位置を第7.6.3.3図に示す。</p> <p>(2) 解析モデル</p> <p>a. 解析用地盤モデル</p> <p>解析用地盤モデルの作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。速度層断面図を第7.6.3.5図に、解析用要素分割図を第7.6.3.6図に示す。</p> <p>b. 解析用建屋モデル</p> <p>緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の解析用建屋モデルは、建屋諸元等を基に作成する。</p> <p>c. 境界条件</p> <p>境界条件の設定方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(3) 解析用物性値</p> <p>解析用物性値は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安</p>	<p>に、地質断面位置図を第7.6.3.3図に、鉛直岩盤分類図を第7.6.3.4図に示す。</p> <p>解析の対象とする断面は、基礎地盤の地質構造、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の配置並びに緊急時対策棟を構成する建屋の規模を考慮し、以下の3断面とする。</p> <p>① 緊急時対策棟を通る断面 ($Y_M - Y_M'$ 断面)</p> <p>② 代替緊急時対策所を通る断面 ($X_{DK} - X_{DK}'$ 断面)</p> <p>③ 代替緊急時対策所を通る断面 ($Y_{DK} - Y_{DK}'$ 断面)</p> <p>解析断面位置を第7.6.3.3図に示す。</p> <p>(2) 解析モデル</p> <p>a. 解析用地盤モデル</p> <p>解析用地盤モデルの作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。速度層断面図を第7.6.3.5図に、解析用要素分割図を第7.6.3.6図に示す。</p> <p>b. 解析用建屋モデル</p> <p>緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の解析用建屋モデルは、建屋諸元等を基に作成する。</p> <p>c. 境界条件</p> <p>境界条件の設定方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(3) 解析用物性値</p> <p>解析用物性値は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安</p>	<p>に、地質断面位置図を第7.6.3.3図に、鉛直岩盤分類図を第7.6.3.4図に示す。</p> <p>解析の対象とする断面は、基礎地盤の地質構造、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の配置並びに緊急時対策棟を構成する建屋の規模を考慮し、以下の3断面とする。</p> <p>① 緊急時対策棟を通る断面 ($Y_M - Y_M'$ 断面)</p> <p>② 代替緊急時対策所を通る断面 ($X_{DK} - X_{DK}'$ 断面)</p> <p>③ 代替緊急時対策所を通る断面 ($Y_{DK} - Y_{DK}'$ 断面)</p> <p>解析断面位置を第7.6.3.3図に示す。</p> <p>(2) 解析モデル</p> <p>a. 解析用地盤モデル</p> <p>解析用地盤モデルの作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。速度層断面図を第7.6.3.5図に、解析用要素分割図を第7.6.3.6図に示す。</p> <p>b. 解析用建屋モデル</p> <p>緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の解析用建屋モデルは、建屋諸元等を基に作成する。</p> <p>c. 境界条件</p> <p>境界条件の設定方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(3) 解析用物性値</p> <p>解析用物性値は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>定性評価」と同じである。</p> <p>(4) 入力地震動 入力地震動の作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(5) 地下水位 解析用地下水位は、地表面位置に設定する。解析用地下水位を第7.6.3.7図に示す。</p> <p>7.6.3.2.2 解析手法 解析手法については、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>7.6.3.2.3 評価内容 (1) すべり安全率 すべり安全率の評価方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p>	<p>定性評価」と同じである。</p> <p>(4) 入力地震動 入力地震動の作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(5) 地下水位 解析用地下水位は、地表面位置に設定する。解析用地下水位を第7.6.3.7図に示す。</p> <p>7.6.3.2.2 解析手法 解析手法については、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>7.6.3.2.3 評価内容 (1) すべり安全率 すべり安全率は、想定したすべり線上の応力状態を基に、すべり線上のせん断抵抗力の和をすべり線上のせん断力の和で除して求める。 想定すべり線は、基礎底面沿いのすべり線、断層・シーム沿いのすべり線及び応力状態や局所安全率を考慮したすべり線について検討する。断層・シーム沿いの想定すべり線については、断層・シームの走向・傾斜を踏まえ、適切に設定する。 なお、せん断強度に達する要素では残留強度を用い、引張応力が発生する要素ではすべり線の垂直応力が圧縮の場合は残留強度、引張の場合は強度をゼロとしてすべり安全率を算定する。</p>	<p>定性評価」と同じである。</p> <p>(4) 入力地震動 入力地震動の作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(5) 地下水位 解析用地下水位は、地表面位置に設定する。解析用地下水位を第7.6.3.7図に示す。</p> <p>7.6.3.2.2 解析手法 解析手法については、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>7.6.3.2.3 評価内容 (1) すべり安全率 すべり安全率は、想定したすべり線上の応力状態を基に、すべり線上のせん断抵抗力の和をすべり線上のせん断力の和で除して求める。 想定すべり線は、基礎底面沿いのすべり線、断層・シーム沿いのすべり線及び応力状態や局所安全率を考慮したすべり線について検討する。断層・シーム沿いの想定すべり線については、断層・シームの走向・傾斜を踏まえ、適切に設定する。 なお、せん断強度に達する要素では残留強度を用い、引張応力が発生する要素ではすべり線の垂直応力が圧縮の場合は残留強度、引張の場合は強度をゼロとしてすべり安全率を算定する。</p>	<p>定性評価」と同じである。</p> <p>(4) 入力地震動 入力地震動の作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(5) 地下水位 解析用地下水位は、地表面位置に設定する。解析用地下水位を第7.6.3.7図に示す。</p> <p>7.6.3.2.2 解析手法 解析手法については、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>7.6.3.2.3 評価内容 (1) すべり安全率 すべり安全率は、想定したすべり線上の応力状態を基に、すべり線上のせん断抵抗力の和をすべり線上のせん断力の和で除して求める。 想定すべり線は、基礎底面沿いのすべり線、断層・シーム沿いのすべり線及び応力状態や局所安全率を考慮したすべり線について検討する。断層・シーム沿いの想定すべり線については、断層・シームの走向・傾斜を踏まえ、適切に設定する。 なお、せん断強度に達する要素では残留強度を用い、引張応力が発生する要素ではすべり線の垂直応力が圧縮の場合は残留強度、引張の場合は強度をゼロとしてすべり安全率を算定する。</p>	<p>C 記載を見直した箇所</p>

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書(令和3年4月28日許可)	当初申請書(令和3年8月23日申請)	前回補正申請書(令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
<p>(2) 支持力 支持力の評価方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(3) 基礎底面の傾斜 基礎底面の傾斜の評価方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(4) 地震発生に伴う周辺地盤の変状及び地殻変動による影響 周辺地盤の変状及び地殻変動の影響の評価方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>7.6.3.3 評価結果 7.6.3.3.1 すべり安全率 想定すべり線におけるすべり安全率を第7.6.3.1表に示す。</p>	<p>(2) 支持力 緊急時対策棟及び代替緊急時対策所における地震時の最大接地圧を求める。</p> <p>(3) 基礎底面の傾斜 基礎底面の傾斜は、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所基礎底面両端それぞれの鉛直方向の変位の差を基礎底面幅で除して求める。</p> <p>(4) 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 周辺地盤の変状が対象施設の安全機能に重大な影響を及ぼさないことを地質調査結果、設計図書等により確認する。</p> <p>(5) 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 敷地内及び敷地近傍には、将来活動する可能性のある断層等が分布しないことを確認していることから、敷地において地殻の広域的な変形による著しい地盤の傾斜が生じることはないが、敷地に比較的近い城山南断層及び竹木場断層の活動に伴い生じる地盤の傾斜について評価を実施する。地殻変動量はWang et al. (2003)の手法により算出する。</p>	<p>(2) 支持力 緊急時対策棟及び代替緊急時対策所における地震時の最大接地圧を求める。</p> <p>(3) 基礎底面の傾斜 基礎底面の傾斜は、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所基礎底面両端それぞれの鉛直方向の変位の差を基礎底面幅で除して求める。</p> <p>(4) 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 周辺地盤の変状が対象施設の安全機能に重大な影響を及ぼさないことを地質調査結果、設計図書等により確認する。</p> <p>(5) 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 敷地内及び敷地近傍には、将来活動する可能性のある断層等が分布しないことを確認していることから、敷地において地殻の広域的な変形による著しい地盤の傾斜が生じることはないが、敷地に比較的近い城山南断層及び竹木場断層の活動に伴い生じる地盤の傾斜について評価を実施する。地殻変動量はWang et al. (2003)の手法により算出する。</p> <p>7.6.3.3 評価結果 7.6.3.3.1 すべり安全率 想定すべり線におけるすべり安全率を第7.6.3.1表に示す。</p>	<p>(2) 支持力 緊急時対策棟及び代替緊急時対策所における地震時の最大接地圧を求める。</p> <p>(3) 基礎底面の傾斜 基礎底面の傾斜は、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所基礎底面両端それぞれの鉛直方向の変位の差を基礎底面幅で除して求める。</p> <p>(4) 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 周辺地盤の変状が対象施設の安全機能に重大な影響を及ぼさないことを地質調査結果、設計図書等により確認する。</p> <p>(5) 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 敷地内及び敷地近傍には、将来活動する可能性のある断層等が分布しないことを確認していることから、敷地において地殻の広域的な変形による著しい地盤の傾斜が生じることはないが、敷地に比較的近い城山南断層及び竹木場断層の活動に伴い生じる地盤の傾斜について評価を実施する。地殻変動量はWang et al. (2003)の手法により算出する。</p> <p>7.6.3.3 評価結果 7.6.3.3.1 すべり安全率 想定すべり線におけるすべり安全率を第7.6.3.1表に示す。</p>	<p>C 記載を見直した箇所</p>

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>最小すべり安全率は、$Y_M - Y_{M'}$ 断面で3.0、$X_{DK} - X_{DK'}$ 断面で2.4、$Y_{DK} - Y_{DK'}$ 断面で3.9であり、評価基準値1.5を上回る。</p> <p>また、最小すべり安全率を示すすべり線に対し、応力再配分を実施した場合のすべり安全率及びすべりに対する抵抗力に最も寄与する岩盤の強度特性のばらつきを考慮した場合(岩盤強度の代表値$-1 \times$標準偏差(σ))のすべり安全率は、いずれも評価基準値1.5を上回る。</p> <p>以上のことから、基礎地盤はすべりに対して十分な安全性を有している。</p> <p>7.6.3.3.2 支持力</p> <p>地質調査結果によると、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所基礎地盤は主として砂岩、頁岩及び玄武岩の㊸級以上の岩盤で構成されており、支持力試験結果から、極限支持力度は$13.7N/mm^2$以上と評価できる。基礎底面の地震時最大接地圧は、緊急時対策棟で$1.70N/mm^2$、代替緊急時対策所で$0.24N/mm^2$であり、基礎地盤は十分な支持力を有している。</p> <p>7.6.3.3.3 基礎底面の傾斜</p> <p>緊急時対策棟及び代替緊急時対策所基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜を第7.6.3.2表に示す。基礎底面の最大傾斜は、緊急時対策棟で1/47,000、代替緊急時対策所で1/23,000であり、評価の目安である1/2,000を十分に下回っていることから、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわ</p>	<p>最小すべり安全率は、$Y_M - Y_{M'}$ 断面で3.0、$X_{DK} - X_{DK'}$ 断面で2.4、$Y_{DK} - Y_{DK'}$ 断面で3.9であり、評価基準値1.5を上回る。</p> <p>また、最小すべり安全率を示すすべり線に対し、応力再配分を実施した場合のすべり安全率及びすべりに対する抵抗力に最も寄与する岩盤の強度特性のばらつきを考慮した場合(岩盤強度の代表値$-1 \times$標準偏差(σ))のすべり安全率は、いずれも評価基準値1.5を上回る。</p> <p>以上のことから、基礎地盤はすべりに対して十分な安全性を有している。</p> <p>7.6.3.3.2 支持力</p> <p>地質調査結果によると、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所基礎地盤は主として砂岩、頁岩及び玄武岩の㊸級以上の岩盤で構成されており、支持力試験結果から、極限支持力度は$13.7N/mm^2$以上と評価できる。基礎底面の地震時最大接地圧は、緊急時対策棟で$1.70N/mm^2$、代替緊急時対策所で$0.24N/mm^2$であり、基礎地盤は十分な支持力を有している。</p> <p>7.6.3.3.3 基礎底面の傾斜</p> <p>緊急時対策棟及び代替緊急時対策所基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜を第7.6.3.2表に示す。基礎底面の最大傾斜は、緊急時対策棟で1/39,000、代替緊急時対策所で1/23,000であり、評価の目安である1/2,000を十分に下回っていることから、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわ</p>	<p>最小すべり安全率は、$Y_M - Y_{M'}$ 断面で3.0、$X_{DK} - X_{DK'}$ 断面で2.4、$Y_{DK} - Y_{DK'}$ 断面で3.9であり、評価基準値1.5を上回る。</p> <p>また、最小すべり安全率を示すすべり線に対し、応力再配分を実施した場合のすべり安全率及びすべりに対する抵抗力に最も寄与する岩盤の強度特性のばらつきを考慮した場合(岩盤強度の代表値$-1 \times$標準偏差(σ))のすべり安全率は、いずれも評価基準値1.5を上回る。</p> <p>以上のことから、基礎地盤はすべりに対して十分な安全性を有している。</p> <p>7.6.3.3.2 支持力</p> <p>地質調査結果によると、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所基礎地盤は主として砂岩、頁岩及び玄武岩の㊸級以上の岩盤で構成されており、支持力試験結果から、極限支持力度は$13.7N/mm^2$以上と評価できる。基礎底面の地震時最大接地圧は、緊急時対策棟で$1.70N/mm^2$、代替緊急時対策所で$0.24N/mm^2$であり、基礎地盤は十分な支持力を有している。</p> <p>7.6.3.3.3 基礎底面の傾斜</p> <p>緊急時対策棟及び代替緊急時対策所基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜を第7.6.3.2表に示す。基礎底面の最大傾斜は、緊急時対策棟で1/39,000、代替緊急時対策所で1/23,000であり、評価の目安である1/2,000を十分に下回っていることから、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわ</p>	<p>最小すべり安全率は、$Y_M - Y_{M'}$ 断面で3.0、$X_{DK} - X_{DK'}$ 断面で2.4、$Y_{DK} - Y_{DK'}$ 断面で3.9であり、評価基準値1.5を上回る。</p> <p>また、最小すべり安全率を示すすべり線に対し、応力再配分を実施した場合のすべり安全率及びすべりに対する抵抗力に最も寄与する岩盤の強度特性のばらつきを考慮した場合(岩盤強度の代表値$-1 \times$標準偏差(σ))のすべり安全率は、いずれも評価基準値1.5を上回る。</p> <p>以上のことから、基礎地盤はすべりに対して十分な安全性を有している。</p> <p>7.6.3.3.2 支持力</p> <p>地質調査結果によると、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所基礎地盤は主として砂岩、頁岩及び玄武岩の㊸級以上の岩盤で構成されており、支持力試験結果から、極限支持力度は$13.7N/mm^2$以上と評価できる。基礎底面の地震時最大接地圧は、緊急時対策棟で$1.70N/mm^2$、代替緊急時対策所で$0.24N/mm^2$であり、基礎地盤は十分な支持力を有している。</p> <p>7.6.3.3.3 基礎底面の傾斜</p> <p>緊急時対策棟及び代替緊急時対策所基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜を第7.6.3.2表に示す。基礎底面の最大傾斜は、緊急時対策棟で1/39,000、代替緊急時対策所で1/23,000であり、評価の目安である1/2,000を十分に下回っていることから、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の重大事故等に対処するために必要な機能が損なわ</p>	<p>B-1 確定した Ss-6 による評価結果の反映</p>

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>れるものではない。</p> <p>7.6.3.3.4 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 対象施設は直接又はマンメイドロックを介して岩着する設計としていることから、揺すり込み沈下や液状化による不等沈下の影響を受けるおそれはない。</p> <p>7.6.3.3.5 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 地殻変動による地盤の最大傾斜は1/31,000であり、地震動による傾斜との重量を考慮した場合においても、基礎底面の最大傾斜は緊急時対策棟で1/20,000、代替緊急時対策所で1/14,000であり、評価基準値の目安である1/2,000を下回っていることから、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の機能が損なわれるものではない。</p> <p>7.6.4 常設耐震重要重大事故防止設備等が設置される重大事故等対処施設の周辺斜面の安定性評価 安定性評価の対象とする斜面は、対象施設と周辺斜面の離間距離、斜面規模及び斜面の性状に基づき抽出する。 周辺斜面の地震時の安定性評価の考え方は、「7.6.2 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の周辺斜面の安定性評価」と同じである。</p> <p>7.6.4.1 評価方針 安定性評価の対象とすべき斜面の選定の</p>	<p>7.6.4 常設耐震重要重大事故防止設備等が設置される重大事故等対処施設の周辺斜面の安定性評価</p> <p style="text-align: center;">(削 除)</p> <p>7.6.4.1 評価方針 対象施設については、基準地震動による</p>	<p>れるものではない。</p> <p>7.6.3.3.4 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 対象施設は直接又はマンメイドロックを介して岩着する設計としていることから、揺すり込み沈下や液状化による不等沈下の影響を受けるおそれはない。</p> <p>7.6.3.3.5 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 地殻変動による地盤の最大傾斜は1/31,000であり、地震動による傾斜との重量を考慮した場合においても、基礎底面の最大傾斜は緊急時対策棟で1/20,000、代替緊急時対策所で1/14,000であり、評価基準値の目安である1/2,000を下回っていることから、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の機能が損なわれるものではない。</p> <p>7.6.4 常設耐震重要重大事故防止設備等が設置される重大事故等対処施設の周辺斜面の安定性評価</p> <p style="text-align: center;">(削 除)</p> <p>7.6.4.1 評価方針 対象施設については、基準地震動による</p>	<p>れるものではない。</p> <p>7.6.3.3.4 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 対象施設は直接又はマンメイドロックを介して岩着する設計としていることから、揺すり込み沈下や液状化による不等沈下の影響を受けるおそれはない。</p> <p>7.6.3.3.5 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 地殻変動による地盤の最大傾斜は1/31,000であり、地震動による傾斜との重量を考慮した場合においても、基礎底面の最大傾斜は緊急時対策棟で1/20,000、代替緊急時対策所で1/14,000であり、評価基準値の目安である1/2,000を下回っていることから、緊急時対策棟及び代替緊急時対策所の機能が損なわれるものではない。</p> <p>7.6.4 常設耐震重要重大事故防止設備等が設置される重大事故等対処施設の周辺斜面の安定性評価</p> <p style="text-align: center;">(削 除)</p> <p>7.6.4.1 評価方針 対象施設については、基準地震動による</p>	<p>C 記載を見直した箇所</p>

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>考え方は、「7.6.2 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の周辺斜面の安定性評価」と同じである。</p> <p>第7.6.4.1図に斜面法尻から50mの範囲及び斜面高さの1.4倍の範囲を示す。同図より、対象施設の周辺には、安定性評価の対象とすべき斜面がないことを確認した。</p>	<p>地震力によって生じるおそれがある周辺の斜面の崩壊に対して、その安全機能が損なわれるおそれがない場所に設置する。</p> <p>7.6.4.2 評価方法</p> <p>安定性評価の対象とする斜面は、対象施設と周辺斜面の離間距離、水平面とのなす角度及び斜面高さに基づき抽出する。</p> <p>安定性評価の対象とすべき斜面の選定の考え方は、「7.6.2 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の周辺斜面の安定性評価」と同じである。</p> <p>第7.6.4.1図に斜面法尻から50mの範囲及び斜面高さの1.4倍の範囲を示す。同図より、対象施設の周辺には、安定性評価の対象とすべき斜面がないことを確認した。</p>	<p>地震力によって生じるおそれがある周辺の斜面の崩壊に対して、その安全機能が損なわれるおそれがない場所に設置する。</p> <p>7.6.4.2 評価方法</p> <p>安定性評価の対象とする斜面は、対象施設と周辺斜面の離間距離、水平面とのなす角度及び斜面高さに基づき抽出する。</p> <p>安定性評価の対象とすべき斜面の選定の考え方は、「7.6.2 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の周辺斜面の安定性評価」と同じである。</p> <p>第7.6.4.1図に斜面法尻から50mの範囲及び斜面高さの1.4倍の範囲を示す。同図より、対象施設の周辺には、安定性評価の対象とすべき斜面がないことを確認した。</p>	<p>地震力によって生じるおそれがある周辺の斜面の崩壊に対して、その安全機能が損なわれるおそれがない場所に設置する。</p> <p>7.6.4.2 評価方法</p> <p>安定性評価の対象とする斜面は、対象施設と周辺斜面の離間距離、水平面とのなす角度及び斜面高さに基づき抽出する。</p> <p>安定性評価の対象とすべき斜面の選定の考え方は、「7.6.2 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の周辺斜面の安定性評価」と同じである。</p> <p>第7.6.4.1図に斜面法尻から50mの範囲及び斜面高さの1.4倍の範囲を示す。同図より、対象施設の周辺には、安定性評価の対象とすべき斜面がないことを確認した。</p>	<p>7.6.5 特定重大事故等対処施設の基礎地盤の安定性評価、7.6.6 特定重大事故等対処施設の周辺斜面の安定性評価 については、本資料では割愛</p>
<p>7.6.7 使用済燃料乾式貯蔵建屋の基礎地盤の安定性評価</p> <p>7.6.7.1 評価方針</p> <p>使用済燃料乾式貯蔵容器は、基準地震動による地震力が作用した場合においても接地圧に対する十分な支持力を有する地盤に</p>	<p>7.6.7 使用済燃料乾式貯蔵建屋の基礎地盤の安定性評価</p>	<p>7.6.7 使用済燃料乾式貯蔵建屋の基礎地盤の安定性評価</p>	<p>7.6.7 使用済燃料乾式貯蔵建屋の基礎地盤の安定性評価</p> <p>7.6.7.1 評価方針</p> <p>使用済燃料乾式貯蔵容器は、基準地震動による地震力が作用した場合においても接地圧に対する十分な支持力を有する地盤に</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>設置する。</p> <p>また、上記に加え、基準地震動による地震力が作用することによって弱面上のずれが発生しないことを含め、基準地震動による地震力に対する支持性能を有する地盤に設置する。</p> <p>使用済燃料乾式貯蔵容器は、地震発生に伴う地殻変動によって生じる支持地盤の傾斜及び撓み並びに地震発生に伴う建物・構築物間の不等沈下、液化化及び揺すり込み沈下等の周辺地盤の変状により、その安全機能が損なわれるおそれがない地盤に設置する。</p>			<p style="color: green;">設置する。</p> <p style="color: green;">また、上記に加え、基準地震動による地震力が作用することによって弱面上のずれが発生しないことを含め、基準地震動による地震力に対する支持性能を有する地盤に設置する。</p> <p style="color: green;">使用済燃料乾式貯蔵容器は、地震発生に伴う地殻変動によって生じる支持地盤の傾斜及び撓み並びに地震発生に伴う建物・構築物間の不等沈下、液化化及び揺すり込み沈下等の周辺地盤の変状により、その安全機能が損なわれるおそれがない地盤に設置する。</p>	
<p>7.6.7.2 評価方法</p> <p>7.6.7.2.1 評価項目</p> <p>使用済燃料乾式貯蔵容器を固定する使用済燃料乾式貯蔵建屋基礎及び使用済燃料乾式貯蔵建屋上部構造物で構成される使用済燃料乾式貯蔵建屋 (以下「対象施設」という。)が設置される地盤 (以下「基礎地盤」という。)の想定すべり線におけるすべり安全率及び基礎底面の傾斜について、基準地震動による地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>基礎地盤の支持力について、基準地震動による地震力及び耐震重要度分類のCクラスに適用される地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>また、地震発生に伴う周辺地盤の変状による不等沈下、液化化、揺すり込み沈下及び地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等により対象施設の安全機能に重大な影響</p>	<p>7.6.7.2 評価方法</p> <p>7.6.7.2.1 評価項目</p> <p>使用済燃料乾式貯蔵容器を固定する使用済燃料乾式貯蔵建屋基礎及び使用済燃料乾式貯蔵建屋上部構造物で構成される使用済燃料乾式貯蔵建屋 (以下「対象施設」という。)が設置される地盤 (以下「基礎地盤」という。)の想定すべり線におけるすべり安全率及び基礎底面の傾斜について、基準地震動による地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>基礎地盤の支持力について、基準地震動による地震力及び耐震重要度分類のCクラスに適用される地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>また、地震発生に伴う周辺地盤の変状による不等沈下、液化化、揺すり込み沈下及び地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等により対象施設の安全機能に重大な影響</p>	<p>7.6.7.2 評価方法</p> <p>7.6.7.2.1 評価項目</p> <p>使用済燃料乾式貯蔵容器を固定する使用済燃料乾式貯蔵建屋基礎及び使用済燃料乾式貯蔵建屋上部構造物で構成される使用済燃料乾式貯蔵建屋 (以下「対象施設」という。)が設置される地盤 (以下「基礎地盤」という。)の想定すべり線におけるすべり安全率及び基礎底面の傾斜について、基準地震動による地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>基礎地盤の支持力について、基準地震動による地震力及び耐震重要度分類のCクラスに適用される地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>また、地震発生に伴う周辺地盤の変状による不等沈下、液化化、揺すり込み沈下及び地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等により対象施設の安全機能に重大な影響</p>	<p>7.6.7.2 評価方法</p> <p>7.6.7.2.1 評価項目</p> <p>使用済燃料乾式貯蔵容器を固定する使用済燃料乾式貯蔵建屋基礎及び使用済燃料乾式貯蔵建屋上部構造物で構成される使用済燃料乾式貯蔵建屋 (以下「対象施設」という。)が設置される地盤 (以下「基礎地盤」という。)の想定すべり線におけるすべり安全率及び基礎底面の傾斜について、基準地震動による地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>基礎地盤の支持力について、基準地震動による地震力及び耐震重要度分類のCクラスに適用される地震力に対して十分な安定性を持つことの評価を行う。</p> <p>また、地震発生に伴う周辺地盤の変状による不等沈下、液化化、揺すり込み沈下及び地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等により対象施設の安全機能に重大な影響</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書(令和3年4月28日許可)	当初申請書(令和3年8月23日申請)	前回補正申請書(令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
<p>を及ぼさないことを確認する。 対象施設配置図を第7.6.7.1図に示す。</p> <p>7.6.7.2.2 解析条件 (1) 解析断面 対象施設付近のボーリング調査位置図を第7.6.7.2図に、地質断面位置図を第7.6.7.3図に、鉛直岩盤分類図を第7.6.7.4図に示す。 解析の対象とする断面は、基礎地盤の地質構造及び対象施設の配置を考慮し、以下の2断面とする。 使用済燃料乾式貯蔵建屋を通る断面(X_{sc}-X_{sc}'断面) 使用済燃料乾式貯蔵建屋を通る断面(Y_s-Y_s'断面) 解析断面位置を第7.6.7.3図に示す。</p> <p>(2) 解析モデル a. 解析用地盤モデル 解析用地盤モデルの作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。速度層断面図を第7.6.7.5図に、解析用要素分割図を第7.6.7.6図に示す。 b. 解析用建屋モデル 対象施設の解析用建屋モデルは、建屋諸元を基に作成する。 c. 境界条件 境界条件の設定方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p>	<p>を及ぼさないことを確認する。 対象施設配置図を第7.6.7.1図に示す。</p> <p>7.6.7.2.2 解析条件 (1) 解析断面 対象施設付近のボーリング調査位置図を第7.6.7.2図に、地質断面位置図を第7.6.7.3図に、鉛直岩盤分類図を第7.6.7.4図に示す。 解析の対象とする断面は、基礎地盤の地質構造及び対象施設の配置を考慮し、以下の2断面とする。 使用済燃料乾式貯蔵建屋を通る断面(X_{sc}-X_{sc}'断面) 使用済燃料乾式貯蔵建屋を通る断面(Y_s-Y_s'断面) 解析断面位置を第7.6.7.3図に示す。</p> <p>(2) 解析モデル a. 解析用地盤モデル 解析用地盤モデルの作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。速度層断面図を第7.6.7.5図に、解析用要素分割図を第7.6.7.6図に示す。 b. 解析用建屋モデル 対象施設の解析用建屋モデルは、建屋諸元を基に作成する。 c. 境界条件 境界条件の設定方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p>	<p>を及ぼさないことを確認する。 対象施設配置図を第7.6.7.1図に示す。</p> <p>7.6.7.2.2 解析条件 (1) 解析断面 対象施設付近のボーリング調査位置図を第7.6.7.2図に、地質断面位置図を第7.6.7.3図に、鉛直岩盤分類図を第7.6.7.4図に示す。 解析の対象とする断面は、基礎地盤の地質構造及び対象施設の配置を考慮し、以下の2断面とする。 ① 使用済燃料乾式貯蔵建屋を通る断面(X_{sc}-X_{sc}'断面) ② 使用済燃料乾式貯蔵建屋を通る断面(Y_s-Y_s'断面) 解析断面位置を第7.6.7.3図に示す。</p> <p>(2) 解析モデル a. 解析用地盤モデル 解析用地盤モデルの作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。速度層断面図を第7.6.7.5図に、解析用要素分割図を第7.6.7.6図に示す。 b. 解析用建屋モデル 対象施設の解析用建屋モデルは、建屋諸元を基に作成する。 c. 境界条件 境界条件の設定方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p>	<p>を及ぼさないことを確認する。 対象施設配置図を第7.6.7.1図に示す。</p> <p>7.6.7.2.2 解析条件 (1) 解析断面 対象施設付近のボーリング調査位置図を第7.6.7.2図に、地質断面位置図を第7.6.7.3図に、鉛直岩盤分類図を第7.6.7.4図に示す。 解析の対象とする断面は、基礎地盤の地質構造及び対象施設の配置を考慮し、以下の2断面とする。 ① 使用済燃料乾式貯蔵建屋を通る断面(X_{sc}-X_{sc}'断面) ② 使用済燃料乾式貯蔵建屋を通る断面(Y_s-Y_s'断面) 解析断面位置を第7.6.7.3図に示す。</p> <p>(2) 解析モデル a. 解析用地盤モデル 解析用地盤モデルの作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。速度層断面図を第7.6.7.5図に、解析用要素分割図を第7.6.7.6図に示す。 b. 解析用建屋モデル 対象施設の解析用建屋モデルは、建屋諸元を基に作成する。 c. 境界条件 境界条件の設定方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p>	<p>C 記載を見直した箇所</p>

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書(令和3年4月28日許可)	当初申請書(令和3年8月23日申請)	前回補正申請書(令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
<p>(3) 解析用物性値 解析用物性値は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(4) 入力地震動 入力地震動の作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(5) 地下水位 解析用地下水位は、地表面位置に設定する。解析用地下水位を第7.6.7.7図に示す。</p> <p>7.6.7.2.3 解析手法 解析手法については、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>7.6.7.2.4 評価内容</p> <p>(1) すべり安全率 すべり安全率は、想定したすべり線上の応力状態を基に、すべり線上のせん断抵抗力の和をすべり線上のせん断力の和で除して求める。 想定すべり線は、基礎底面沿いのすべり線、断層・シーム沿いのすべり線及び応力状態や局所安全率を考慮したすべり線について検討する。断層・シーム沿いの想定すべり線については、断層・シームの走向・傾斜を踏まえ、適切に設定する。 なお、せん断強度に達する要素では残留強度を用い、引張応力が発生する要素では</p>	<p>(3) 解析用物性値 解析用物性値は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(4) 入力地震動 入力地震動の作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(5) 地下水位 解析用地下水位は、地表面位置に設定する。解析用地下水位を第7.6.7.7図に示す。</p> <p>7.6.7.2.3 解析手法 解析手法については、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>7.6.7.2.4 評価内容</p> <p>(1) すべり安全率 すべり安全率は、想定したすべり線上の応力状態を基に、すべり線上のせん断抵抗力の和をすべり線上のせん断力の和で除して求める。 想定すべり線は、基礎底面沿いのすべり線、断層・シーム沿いのすべり線及び応力状態や局所安全率を考慮したすべり線について検討する。断層・シーム沿いの想定すべり線については、断層・シームの走向・傾斜を踏まえ、適切に設定する。 なお、せん断強度に達する要素では残留強度を用い、引張応力が発生する要素では</p>	<p>(3) 解析用物性値 解析用物性値は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(4) 入力地震動 入力地震動の作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(5) 地下水位 解析用地下水位は、地表面位置に設定する。解析用地下水位を第7.6.7.7図に示す。</p> <p>7.6.7.2.3 解析手法 解析手法については、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>7.6.7.2.4 評価内容</p> <p>(1) すべり安全率 すべり安全率は、想定したすべり線上の応力状態を基に、すべり線上のせん断抵抗力の和をすべり線上のせん断力の和で除して求める。 想定すべり線は、基礎底面沿いのすべり線、断層・シーム沿いのすべり線及び応力状態や局所安全率を考慮したすべり線について検討する。断層・シーム沿いの想定すべり線については、断層・シームの走向・傾斜を踏まえ、適切に設定する。 なお、せん断強度に達する要素では残留強度を用い、引張応力が発生する要素では</p>	<p>(3) 解析用物性値 解析用物性値は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(4) 入力地震動 入力地震動の作成方法は、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>(5) 地下水位 解析用地下水位は、地表面位置に設定する。解析用地下水位を第7.6.7.7図に示す。</p> <p>7.6.7.2.3 解析手法 解析手法については、「7.6.1 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の基礎地盤の安定性評価」と同じである。</p> <p>7.6.7.2.4 評価内容</p> <p>(1) すべり安全率 すべり安全率は、想定したすべり線上の応力状態を基に、すべり線上のせん断抵抗力の和をすべり線上のせん断力の和で除して求める。 想定すべり線は、基礎底面沿いのすべり線、断層・シーム沿いのすべり線及び応力状態や局所安全率を考慮したすべり線について検討する。断層・シーム沿いの想定すべり線については、断層・シームの走向・傾斜を踏まえ、適切に設定する。 なお、せん断強度に達する要素では残留強度を用い、引張応力が発生する要素では</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書(令和3年4月28日許可)	当初申請書(令和3年8月23日申請)	前回補正申請書(令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
<p>すべり線の垂直応力が圧縮の場合は残留強度、引張の場合は強度をゼロとしてすべり安全率を算定する。</p> <p>(2) 支持力 対象施設における地震時の最大接地圧を求める。</p> <p>(3) 基礎底面の傾斜 基礎底面の傾斜は、対象施設の基礎底面両端それぞれの鉛直方向の変位の差を基礎底面幅で除して求める。</p> <p>(4) 地震発生に伴う周辺地盤の変状及び地殻変動による影響 周辺地盤の変状が対象施設の安全機能に重大な影響を及ぼさないことを地質調査結果、設計図書等により確認する。 敷地内及び敷地近傍には、将来活動する可能性のある断層等が分布しないことを確認していることから、敷地において地殻の広域的な変形による著しい地盤の傾斜が生じることはないが、敷地に比較的近い城山南断層及び竹木場断層の活動に伴い生じる地盤の傾斜について評価を実施する。地殻変動量はWang et al. (2003)の手法により算出する。</p>	<p>すべり線の垂直応力が圧縮の場合は残留強度、引張の場合は強度をゼロとしてすべり安全率を算定する。</p> <p>(2) 支持力 対象施設における地震時の最大接地圧を求める。</p> <p>(3) 基礎底面の傾斜 基礎底面の傾斜は、対象施設の基礎底面両端それぞれの鉛直方向の変位の差を基礎底面幅で除して求める。</p> <p>(4) 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 周辺地盤の変状が対象施設の安全機能に重大な影響を及ぼさないことを地質調査結果、設計図書等により確認する。</p> <p>(5) 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 敷地内及び敷地近傍には、将来活動する可能性のある断層等が分布しないことを確認していることから、敷地において地殻の広域的な変形による著しい地盤の傾斜が生じることはないが、敷地に比較的近い城山</p>	<p>すべり線の垂直応力が圧縮の場合は残留強度、引張の場合は強度をゼロとしてすべり安全率を算定する。</p> <p>(2) 支持力 対象施設における地震時の最大接地圧を求める。</p> <p>(3) 基礎底面の傾斜 基礎底面の傾斜は、対象施設の基礎底面両端それぞれの鉛直方向の変位の差を基礎底面幅で除して求める。</p> <p>(4) 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 周辺地盤の変状が対象施設の安全機能に重大な影響を及ぼさないことを地質調査結果、設計図書等により確認する。</p> <p>(5) 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 敷地内及び敷地近傍には、将来活動する可能性のある断層等が分布しないことを確認していることから、敷地において地殻の広域的な変形による著しい地盤の傾斜が生じることはないが、敷地に比較的近い城山</p>	<p>すべり線の垂直応力が圧縮の場合は残留強度、引張の場合は強度をゼロとしてすべり安全率を算定する。</p> <p>(2) 支持力 対象施設における地震時の最大接地圧を求める。</p> <p>(3) 基礎底面の傾斜 基礎底面の傾斜は、対象施設の基礎底面両端それぞれの鉛直方向の変位の差を基礎底面幅で除して求める。</p> <p>(4) 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 周辺地盤の変状が対象施設の安全機能に重大な影響を及ぼさないことを地質調査結果、設計図書等により確認する。</p> <p>(5) 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 敷地内及び敷地近傍には、将来活動する可能性のある断層等が分布しないことを確認していることから、敷地において地殻の広域的な変形による著しい地盤の傾斜が生じることはないが、敷地に比較的近い城山</p>	<p>C 記載を見直した箇所</p>

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>7.6.7.3 評価結果</p> <p>7.6.7.3.1 すべり安全率</p> <p>想定すべり線におけるすべり安全率を第7.6.7.1表に示す。</p> <p>最小すべり安全率は、$X_{sc}-X_{sc}'$ 断面で6.2、Y_s-Y_s' 断面で2.5であり、評価基準値1.5を上回る。</p> <p>また、最小すべり安全率を示すすべり線に対し、応力再配分を実施した場合のすべり安全率及びすべりに対する抵抗力に最も寄与する岩盤の強度特性のばらつきを考慮した場合(岩盤強度の代表値-1×標準偏差(σ))のすべり安全率は、いずれも評価基準値1.5を上回る。</p> <p>以上のことから、基礎地盤はすべりに対して十分な安全性を有している。</p> <p>7.6.7.3.2 支持力</p> <p>支持力評価にあたって、耐震重要度分類のCクラスに適用される地震力による評価結果は、基準地震動による地震力の評価結果に包絡されることから、基準地震動による地震力の評価結果で代表させる。</p> <p>地質調査結果によると、対象施設の基礎地盤は、主として砂岩及び頁岩の⑧級以上の岩盤で構成されており、支持力試験結果から、極限支持力度は$13.7N/mm^2$以上と評価できる。対象施設基礎底面の地震時最大</p>	<p>南断層及び竹木場断層の活動に伴い生じる地盤の傾斜について評価を実施する。地殻変動量はWang et al. (2003)⁽¹⁾の手法により算出する。</p>	<p>南断層及び竹木場断層の活動に伴い生じる地盤の傾斜について評価を実施する。地殻変動量はWang et al. (2003)⁽¹⁾の手法により算出する。</p>	<p>7.6.7.3 評価結果</p> <p>7.6.7.3.1 すべり安全率</p> <p>想定すべり線におけるすべり安全率を第7.6.7.1表に示す。</p> <p>最小すべり安全率は、$X_{sc}-X_{sc}'$ 断面で6.2、Y_s-Y_s' 断面で2.5であり、評価基準値1.5を上回る。</p> <p>また、最小すべり安全率を示すすべり線に対し、応力再配分を実施した場合のすべり安全率及びすべりに対する抵抗力に最も寄与する岩盤の強度特性のばらつきを考慮した場合(岩盤強度の代表値-1×標準偏差(σ))のすべり安全率は、いずれも評価基準値1.5を上回る。</p> <p>以上のことから、基礎地盤はすべりに対して十分な安全性を有している。</p> <p>7.6.7.3.2 支持力</p> <p>支持力評価にあたって、耐震重要度分類のCクラスに適用される地震力による評価結果は、基準地震動による地震力の評価結果に包絡されることから、基準地震動による地震力の評価結果で代表させる。</p> <p>地質調査結果によると、対象施設の基礎地盤は、主として砂岩及び頁岩の⑧級以上の岩盤で構成されており、支持力試験結果から、極限支持力度は$13.7N/mm^2$以上と評価できる。対象施設基礎底面の地震時最大</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
(標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請で記載を変更した箇所
赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
<p>接地圧は1.01N/mm²であり、基礎地盤は十分な支持力を有している。</p> <p>7.6.7.3.3 基礎底面の傾斜 対象施設基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜を第7.6.7.2表に示す。基礎底面の最大傾斜は1/40,000であり、評価の目安である1/2,000を十分に下回っていることから、対象施設の機能が損なわれるものではない。</p> <p>7.6.7.3.4 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 対象施設は、マンメイドロックを介して岩着する設計としていることから、揺すり込み沈下や液状化による不等沈下の影響を受けるおそれはない。</p> <p>7.6.7.3.5 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 地殻変動による地盤の最大傾斜は1/31,000であり、地震動による傾斜との重畳を考慮した場合においても、基礎底面の最大傾斜は1/20,000であり、評価基準値の目安である1/2,000を下回っていることから、対象施設の機能が損なわれるものではない。</p> <p>7.6.8 使用済燃料乾式貯蔵建屋の周辺斜面の安定性評価 7.6.8.1 評価方針 使用済燃料乾式貯蔵容器については、基準地震動による地震力によって生じるおそれがある周辺の斜面の崩壊に対して、その</p>			<p style="color: green;">接地圧は1.01N/mm²であり、基礎地盤は十分な支持力を有している。</p> <p style="color: green;">7.6.7.3.3 基礎底面の傾斜 対象施設基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜を第7.6.7.2表に示す。基礎底面の最大傾斜は1/40,000であり、評価の目安である1/2,000を十分に下回っていることから、対象施設の機能が損なわれるものではない。</p> <p style="color: green;">7.6.7.3.4 地震発生に伴う周辺地盤の変状による影響 対象施設は、マンメイドロックを介して岩着する設計としていることから、揺すり込み沈下や液状化による不等沈下の影響を受けるおそれはない。</p> <p style="color: green;">7.6.7.3.5 地殻変動による基礎地盤の傾斜及び撓み等による影響 地殻変動による地盤の最大傾斜は1/31,000であり、地震動による傾斜との重畳を考慮した場合においても、基礎底面の最大傾斜は1/20,000であり、評価基準値の目安である1/2,000を下回っていることから、対象施設の機能が損なわれるものではない。</p> <p style="color: green;">7.6.8 使用済燃料乾式貯蔵建屋の周辺斜面の安定性評価 7.6.8.1 評価方針 使用済燃料乾式貯蔵容器については、基準地震動による地震力によって生じるおそれがある周辺の斜面の崩壊に対して、その</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>安全機能が損なわれるおそれがない場所に設置する。</p> <p>7.6.8.2 評価方法</p> <p>安定性評価の対象とする斜面は、対象施設と周辺斜面の離間距離、水平面とのなす角度及び斜面高さに基づき抽出する。</p> <p>安定性評価の対象とすべき斜面の選定の考え方は、「7.6.2 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の周辺斜面の安定性評価」と同じである。</p> <p>第7.6.8.1図に斜面法尻から50mの範囲及び斜面高さの1.4倍の範囲を示す。同図より、対象施設の周辺には、安定性評価の対象とすべき斜面がないことを確認した。</p> <p>7.6.9 参考文献</p> <p>(1) Rongjiang Wang, Francisco Lorenzo Martin, Frank Roth : Computation of deformation induced by earthquakes in a multi-layered elastic crust - FORTRAN programs EDGRN/EDCMP, Computers & Geosciences 29, 2003.</p> <p>(2) 社団法人 日本電気協会 電気技術基準調査委員会編 (1987) : 原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG4601 - 1987、pp89, 170, 184.</p> <p>(3) 土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律 (平成十二年五月八日法律第五十七号)</p>			<p style="color: blue;">安全機能が損なわれるおそれがない場所に設置する。</p> <p style="color: blue;">7.6.8.2 評価方法</p> <p style="color: blue;">安定性評価の対象とする斜面は、対象施設と周辺斜面の離間距離、水平面とのなす角度及び斜面高さに基づき抽出する。</p> <p style="color: blue;">安定性評価の対象とすべき斜面の選定の考え方は、「7.6.2 設計基準対象施設のうち耐震重要施設等の周辺斜面の安定性評価」と同じである。</p> <p style="color: blue;">第7.6.8.1図に斜面法尻から50mの範囲及び斜面高さの1.4倍の範囲を示す。同図より、対象施設の周辺には、安定性評価の対象とすべき斜面がないことを確認した。</p> <p style="color: blue;">7.6.9 参考文献</p> <p style="color: blue;">(1) Rongjiang Wang, Francisco Lorenzo Martin, Frank Roth : Computation of deformation induced by earthquakes in a multi-layered elastic crust - FORTRAN programs EDGRN/EDCMP, Computers & Geosciences 29, 2003.</p> <p style="color: blue;">(2) 社団法人 日本電気協会 電気技術基準調査委員会編 (1987) : 原子力発電所耐震設計技術指針 JEAG4601 - 1987、pp89, 170, 184.</p> <p style="color: blue;">(3) 土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律 (平成十二年五月八日法律第五十七号)</p>	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
第7.6.1.1表 解析用物性値設定の考え方				
第7.6.1.2表 解析用物性値				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青: 当初申請書で記載を変更した箇所
 赤: 前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑: 今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考	
第7.6.1.3表 (1) すべり安全率 ($X_{34}-X_{34}'$ 断面) (その1)					
				B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映	
第7.6.1.3表 (2) すべり安全率 ($X_{34}-X_{34}'$ 断面) (その2)					
					B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映
第7.6.1.3表 (3) すべり安全率 (Y_3-Y_3' 断面) (その1)					
				B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映	
第7.6.1.3表 (4) すべり安全率 (Y_3-Y_3' 断面) (その2)					
				B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
第7.6.1.3表 (5) すべり安全率 (Y_4-Y_4' 断面) (その1)				
				<p>B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映</p>
第7.6.1.3表 (6) すべり安全率 (Y_4-Y_4' 断面) (その2)				
				<p>B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映</p>

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考																																																																																													
第7.6.1.4表（1） 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜（ $X_{34}-X_{34}'$ 断面、3号炉）																																																																																																	
<p>第7.6.1.4表（1） 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{34}-X_{34}'$ 断面、3号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$ </th> <th>最大傾斜 $\frac{\delta Ay - \delta By}{L}$ </th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>1.7</td><td>1/34,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.7</td><td>1/81,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>1.4</td><td>1/41,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.2</td><td>1/48,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.8</td><td>1/71,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>1.3</td><td>1/44,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$	最大傾斜 $\frac{\delta Ay - \delta By}{L}$	Ss-1	1.7	1/34,000	Ss-2	0.7	1/81,000	Ss-3	1.4	1/41,000	Ss-4	1.2	1/48,000	Ss-5 (NS)	0.8	1/71,000	Ss-5 (EW)	1.3	1/44,000	<p>第7.6.1.4表（1） 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{34}-X_{34}'$ 断面、3号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$ </th> <th>最大傾斜 $\frac{\delta Ay - \delta By}{L}$ </th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>1.7</td><td>1/34,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.7</td><td>1/81,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>1.4</td><td>1/41,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.2</td><td>1/48,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.8</td><td>1/71,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>1.3</td><td>1/44,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid blue;"><td>Ss-6</td><td>1.2</td><td>1/48,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$	最大傾斜 $\frac{\delta Ay - \delta By}{L}$	Ss-1	1.7	1/34,000	Ss-2	0.7	1/81,000	Ss-3	1.4	1/41,000	Ss-4	1.2	1/48,000	Ss-5 (NS)	0.8	1/71,000	Ss-5 (EW)	1.3	1/44,000	Ss-6	1.2	1/48,000	<p>7.6.1.4表（1） 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{34}-X_{34}'$ 断面、3号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$ </th> <th>最大傾斜 $\frac{\delta Ay - \delta By}{L}$ </th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>1.7</td><td>1/34,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.7</td><td>1/81,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>1.4</td><td>1/41,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.2</td><td>1/48,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.8</td><td>1/71,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>1.3</td><td>1/44,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>1.5</td><td>1/38,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$	最大傾斜 $\frac{\delta Ay - \delta By}{L}$	Ss-1	1.7	1/34,000	Ss-2	0.7	1/81,000	Ss-3	1.4	1/41,000	Ss-4	1.2	1/48,000	Ss-5 (NS)	0.8	1/71,000	Ss-5 (EW)	1.3	1/44,000	Ss-6	1.5	1/38,000	<p>7.6.1.4表（1） 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{34}-X_{34}'$ 断面、3号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$ </th> <th>最大傾斜 $\frac{\delta Ay - \delta By}{L}$ </th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>1.7</td><td>1/34,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.7</td><td>1/81,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>1.4</td><td>1/41,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.2</td><td>1/48,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.8</td><td>1/71,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>1.3</td><td>1/44,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>1.5</td><td>1/38,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$	最大傾斜 $\frac{\delta Ay - \delta By}{L}$	Ss-1	1.7	1/34,000	Ss-2	0.7	1/81,000	Ss-3	1.4	1/41,000	Ss-4	1.2	1/48,000	Ss-5 (NS)	0.8	1/71,000	Ss-5 (EW)	1.3	1/44,000	Ss-6	1.5	1/38,000	<p>B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映</p>
地震動	最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$	最大傾斜 $\frac{\delta Ay - \delta By}{L}$																																																																																															
Ss-1	1.7	1/34,000																																																																																															
Ss-2	0.7	1/81,000																																																																																															
Ss-3	1.4	1/41,000																																																																																															
Ss-4	1.2	1/48,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.8	1/71,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	1.3	1/44,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$	最大傾斜 $\frac{\delta Ay - \delta By}{L}$																																																																																															
Ss-1	1.7	1/34,000																																																																																															
Ss-2	0.7	1/81,000																																																																																															
Ss-3	1.4	1/41,000																																																																																															
Ss-4	1.2	1/48,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.8	1/71,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	1.3	1/44,000																																																																																															
Ss-6	1.2	1/48,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$	最大傾斜 $\frac{\delta Ay - \delta By}{L}$																																																																																															
Ss-1	1.7	1/34,000																																																																																															
Ss-2	0.7	1/81,000																																																																																															
Ss-3	1.4	1/41,000																																																																																															
Ss-4	1.2	1/48,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.8	1/71,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	1.3	1/44,000																																																																																															
Ss-6	1.5	1/38,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$	最大傾斜 $\frac{\delta Ay - \delta By}{L}$																																																																																															
Ss-1	1.7	1/34,000																																																																																															
Ss-2	0.7	1/81,000																																																																																															
Ss-3	1.4	1/41,000																																																																																															
Ss-4	1.2	1/48,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.8	1/71,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	1.3	1/44,000																																																																																															
Ss-6	1.5	1/38,000																																																																																															

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考																																																																																													
第7.6.1.4表 (2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 (X ₃₄ -X ₃₄ ' 断面、4号炉)																																																																																																	
<p>第7.6.1.4表 (2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 (X₃₄-X₃₄' 断面、4号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) δAy - δBy </th> <th>最大傾斜 δAy - δBy L</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>3.3</td><td>1/24,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.9</td><td>1/87,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>1.9</td><td>1/41,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>5.3</td><td>1/15,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>2.3</td><td>1/34,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>1.9</td><td>1/41,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 δAy - δBy L	Ss-1	3.3	1/24,000	Ss-2	0.9	1/87,000	Ss-3	1.9	1/41,000	Ss-4	5.3	1/15,000	Ss-5 (NS)	2.3	1/34,000	Ss-5 (EW)	1.9	1/41,000	<p>第7.6.1.4表 (2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 (X₃₄-X₃₄' 断面、4号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) δAy - δBy </th> <th>最大傾斜 δAy - δBy L</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>3.3</td><td>1/24,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.9</td><td>1/87,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>1.9</td><td>1/41,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>5.3</td><td>1/15,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>2.3</td><td>1/34,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>1.9</td><td>1/41,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid blue;"><td>Ss-6</td><td>1.6</td><td>1/49,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 δAy - δBy L	Ss-1	3.3	1/24,000	Ss-2	0.9	1/87,000	Ss-3	1.9	1/41,000	Ss-4	5.3	1/15,000	Ss-5 (NS)	2.3	1/34,000	Ss-5 (EW)	1.9	1/41,000	Ss-6	1.6	1/49,000	<p>第7.6.1.4表 (2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 (X₃₄-X₃₄' 断面、4号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) δAy - δBy </th> <th>最大傾斜 δAy - δBy L</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>3.3</td><td>1/24,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.9</td><td>1/87,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>1.9</td><td>1/41,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>5.3</td><td>1/15,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>2.3</td><td>1/34,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>1.9</td><td>1/41,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>2.5</td><td>1/31,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 δAy - δBy L	Ss-1	3.3	1/24,000	Ss-2	0.9	1/87,000	Ss-3	1.9	1/41,000	Ss-4	5.3	1/15,000	Ss-5 (NS)	2.3	1/34,000	Ss-5 (EW)	1.9	1/41,000	Ss-6	2.5	1/31,000	<p>第7.6.1.4表 (2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 (X₃₄-X₃₄' 断面、4号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) δAy - δBy </th> <th>最大傾斜 δAy - δBy L</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>3.3</td><td>1/24,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.9</td><td>1/87,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>1.9</td><td>1/41,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>5.3</td><td>1/15,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>2.3</td><td>1/34,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>1.9</td><td>1/41,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>2.5</td><td>1/31,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 δAy - δBy L	Ss-1	3.3	1/24,000	Ss-2	0.9	1/87,000	Ss-3	1.9	1/41,000	Ss-4	5.3	1/15,000	Ss-5 (NS)	2.3	1/34,000	Ss-5 (EW)	1.9	1/41,000	Ss-6	2.5	1/31,000	<p>B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映</p>
地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 δAy - δBy L																																																																																															
Ss-1	3.3	1/24,000																																																																																															
Ss-2	0.9	1/87,000																																																																																															
Ss-3	1.9	1/41,000																																																																																															
Ss-4	5.3	1/15,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	2.3	1/34,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	1.9	1/41,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 δAy - δBy L																																																																																															
Ss-1	3.3	1/24,000																																																																																															
Ss-2	0.9	1/87,000																																																																																															
Ss-3	1.9	1/41,000																																																																																															
Ss-4	5.3	1/15,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	2.3	1/34,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	1.9	1/41,000																																																																																															
Ss-6	1.6	1/49,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 δAy - δBy L																																																																																															
Ss-1	3.3	1/24,000																																																																																															
Ss-2	0.9	1/87,000																																																																																															
Ss-3	1.9	1/41,000																																																																																															
Ss-4	5.3	1/15,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	2.3	1/34,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	1.9	1/41,000																																																																																															
Ss-6	2.5	1/31,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 δAy - δBy L																																																																																															
Ss-1	3.3	1/24,000																																																																																															
Ss-2	0.9	1/87,000																																																																																															
Ss-3	1.9	1/41,000																																																																																															
Ss-4	5.3	1/15,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	2.3	1/34,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	1.9	1/41,000																																																																																															
Ss-6	2.5	1/31,000																																																																																															

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青: 当初申請書で記載を変更した箇所
 赤: 前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑: 今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考																																																																																													
第7.6.1.4表 (3) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_3 - Y_3'$ 断面、3号炉)																																																																																																	
<p>第7.6.1.4表 (3) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_3 - Y_3'$ 断面)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$</th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.8</td><td>1/125,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.4</td><td>1/250,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.7</td><td>1/143,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>0.8</td><td>1/125,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.8</td><td>1/125,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.7</td><td>1/143,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	Ss-1	0.8	1/125,000	Ss-2	0.4	1/250,000	Ss-3	0.7	1/143,000	Ss-4	0.8	1/125,000	Ss-5 (NS)	0.8	1/125,000	Ss-5 (EW)	0.7	1/143,000	<p>第7.6.1.4表 (3) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_3 - Y_3'$ 断面)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$</th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.8</td><td>1/125,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.4</td><td>1/250,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.7</td><td>1/143,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>0.8</td><td>1/125,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.8</td><td>1/125,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.7</td><td>1/143,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid blue;"><td>Ss-6</td><td>0.9</td><td>1/111,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	Ss-1	0.8	1/125,000	Ss-2	0.4	1/250,000	Ss-3	0.7	1/143,000	Ss-4	0.8	1/125,000	Ss-5 (NS)	0.8	1/125,000	Ss-5 (EW)	0.7	1/143,000	Ss-6	0.9	1/111,000	<p>第7.6.1.4表 (3) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_3 - Y_3'$ 断面、3号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$</th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.8</td><td>1/125,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.4</td><td>1/250,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.7</td><td>1/143,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>0.8</td><td>1/125,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.8</td><td>1/125,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.7</td><td>1/143,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>0.9</td><td>1/111,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	Ss-1	0.8	1/125,000	Ss-2	0.4	1/250,000	Ss-3	0.7	1/143,000	Ss-4	0.8	1/125,000	Ss-5 (NS)	0.8	1/125,000	Ss-5 (EW)	0.7	1/143,000	Ss-6	0.9	1/111,000	<p>第7.6.1.4表 (3) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_3 - Y_3'$ 断面、3号炉)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$</th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.8</td><td>1/125,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.4</td><td>1/250,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.7</td><td>1/143,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>0.8</td><td>1/125,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.8</td><td>1/125,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.7</td><td>1/143,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>0.9</td><td>1/111,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	Ss-1	0.8	1/125,000	Ss-2	0.4	1/250,000	Ss-3	0.7	1/143,000	Ss-4	0.8	1/125,000	Ss-5 (NS)	0.8	1/125,000	Ss-5 (EW)	0.7	1/143,000	Ss-6	0.9	1/111,000	<p>B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映</p>
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.8	1/125,000																																																																																															
Ss-2	0.4	1/250,000																																																																																															
Ss-3	0.7	1/143,000																																																																																															
Ss-4	0.8	1/125,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.8	1/125,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.7	1/143,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.8	1/125,000																																																																																															
Ss-2	0.4	1/250,000																																																																																															
Ss-3	0.7	1/143,000																																																																																															
Ss-4	0.8	1/125,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.8	1/125,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.7	1/143,000																																																																																															
Ss-6	0.9	1/111,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.8	1/125,000																																																																																															
Ss-2	0.4	1/250,000																																																																																															
Ss-3	0.7	1/143,000																																																																																															
Ss-4	0.8	1/125,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.8	1/125,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.7	1/143,000																																																																																															
Ss-6	0.9	1/111,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.8	1/125,000																																																																																															
Ss-2	0.4	1/250,000																																																																																															
Ss-3	0.7	1/143,000																																																																																															
Ss-4	0.8	1/125,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.8	1/125,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.7	1/143,000																																																																																															
Ss-6	0.9	1/111,000																																																																																															

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考																																																																																													
第7.6.1.4表 (4) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 (Y ₄ -Y ₄ ' 断面、4号炉)																																																																																																	
第7.6.1.4表 (4) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 (Y ₄ -Y ₄ ' 断面)	第7.6.1.4表 (4) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 (Y ₄ -Y ₄ ' 断面)	第7.6.1.4表 (4) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 (Y ₄ -Y ₄ ' 断面、4号炉)	第7.6.1.4表 (4) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 (Y ₄ -Y ₄ ' 断面、4号炉)	B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映																																																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) δAy - δBy </th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>1.1</td><td>1/86,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.4</td><td>1/237,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.9</td><td>1/105,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.5</td><td>1/63,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>1.0</td><td>1/95,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.8</td><td>1/119,000</td></tr> </tbody> </table>	地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$		Ss-1	1.1	1/86,000	Ss-2	0.4	1/237,000	Ss-3	0.9	1/105,000	Ss-4	1.5	1/63,000	Ss-5 (NS)	1.0	1/95,000	Ss-5 (EW)	0.8	1/119,000	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) δAy - δBy </th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>1.1</td><td>1/86,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.4</td><td>1/237,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.9</td><td>1/105,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.5</td><td>1/63,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>1.0</td><td>1/95,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.8</td><td>1/119,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid blue;"><td>Ss-6</td><td>1.0</td><td>1/95,000</td></tr> </tbody> </table>	地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	Ss-1	1.1	1/86,000	Ss-2	0.4	1/237,000	Ss-3	0.9	1/105,000	Ss-4	1.5	1/63,000	Ss-5 (NS)	1.0	1/95,000	Ss-5 (EW)	0.8	1/119,000	Ss-6	1.0	1/95,000	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) δAy - δBy </th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>1.1</td><td>1/86,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.4</td><td>1/237,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.9</td><td>1/105,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.5</td><td>1/63,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>1.0</td><td>1/95,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.8</td><td>1/119,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>1.5</td><td>1/63,000</td></tr> </tbody> </table>	地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	Ss-1	1.1	1/86,000	Ss-2	0.4	1/237,000	Ss-3	0.9	1/105,000	Ss-4	1.5	1/63,000	Ss-5 (NS)	1.0	1/95,000	Ss-5 (EW)	0.8	1/119,000	Ss-6	1.5	1/63,000	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) δAy - δBy </th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>1.1</td><td>1/86,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.4</td><td>1/237,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.9</td><td>1/105,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.5</td><td>1/63,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>1.0</td><td>1/95,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.8</td><td>1/119,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>1.5</td><td>1/63,000</td></tr> </tbody> </table>	地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	Ss-1	1.1	1/86,000	Ss-2	0.4	1/237,000	Ss-3	0.9	1/105,000	Ss-4	1.5	1/63,000	Ss-5 (NS)	1.0	1/95,000	Ss-5 (EW)	0.8	1/119,000	Ss-6	1.5	1/63,000
地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$																																																																																															
Ss-1	1.1	1/86,000																																																																																															
Ss-2	0.4	1/237,000																																																																																															
Ss-3	0.9	1/105,000																																																																																															
Ss-4	1.5	1/63,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	1.0	1/95,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.8	1/119,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$																																																																																															
Ss-1	1.1	1/86,000																																																																																															
Ss-2	0.4	1/237,000																																																																																															
Ss-3	0.9	1/105,000																																																																																															
Ss-4	1.5	1/63,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	1.0	1/95,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.8	1/119,000																																																																																															
Ss-6	1.0	1/95,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$																																																																																															
Ss-1	1.1	1/86,000																																																																																															
Ss-2	0.4	1/237,000																																																																																															
Ss-3	0.9	1/105,000																																																																																															
Ss-4	1.5	1/63,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	1.0	1/95,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.8	1/119,000																																																																																															
Ss-6	1.5	1/63,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) δAy - δBy	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$																																																																																															
Ss-1	1.1	1/86,000																																																																																															
Ss-2	0.4	1/237,000																																																																																															
Ss-3	0.9	1/105,000																																																																																															
Ss-4	1.5	1/63,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	1.0	1/95,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.8	1/119,000																																																																																															
Ss-6	1.5	1/63,000																																																																																															
(記号の説明) 	(記号の説明) 	(記号の説明) 	(記号の説明) 																																																																																														

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青: 当初申請書で記載を変更した箇所
 赤: 前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑: 今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考	
第7.6.3.1表 (1) すべり安全率 ($Y_M - Y_M'$ 断面) (その1)					
				B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映	
第7.6.3.1表 (2) すべり安全率 ($Y_M - Y_M'$ 断面) (その2)					
第7.6.3.1表 (3) すべり安全率 ($X_{DK} - X_{DK}'$ 断面) (その1)					
				B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映	
第7.6.3.1表 (4) すべり安全率 ($X_{DK} - X_{DK}'$ 断面) (その2)					
				B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青: 当初申請書で記載を変更した箇所
 赤: 前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑: 今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
第7.6.3.1表 (5) すべり安全率 ($Y_{DK} - Y_{DK}'$ 断面) (その1)				
				B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映
第7.6.3.1表 (6) すべり安全率 ($Y_{DK} - Y_{DK}'$ 断面) (その2)				
				B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

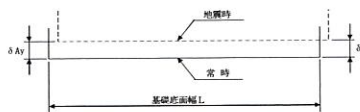
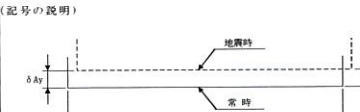
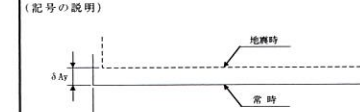

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考																																																																																													
第7.6.3.2表 (1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_M - Y_M'$ 断面)																																																																																																	
第7.6.3.2表 (1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_M - Y_M'$ 断面)	第7.6.3.2表 (1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_M - Y_M'$ 断面)	第7.6.3.2表 (1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_M - Y_M'$ 断面)	第7.6.3.2表 (1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_M - Y_M'$ 断面)	B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映																																																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$</th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.9</td><td>1/52,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.7</td><td>1/67,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.8</td><td>1/59,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.0</td><td>1/47,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.7</td><td>1/67,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.7</td><td>1/67,000</td></tr> </tbody> </table>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$		Ss-1	0.9	1/52,000	Ss-2	0.7	1/67,000	Ss-3	0.8	1/59,000	Ss-4	1.0	1/47,000	Ss-5 (NS)	0.7	1/67,000	Ss-5 (EW)	0.7	1/67,000	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$</th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.9</td><td>1/52,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.7</td><td>1/67,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.8</td><td>1/59,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.0</td><td>1/47,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.7</td><td>1/67,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.7</td><td>1/67,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid blue;"><td>Ss-6</td><td>0.9</td><td>1/52,000</td></tr> </tbody> </table>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$	Ss-1	0.9	1/52,000	Ss-2	0.7	1/67,000	Ss-3	0.8	1/59,000	Ss-4	1.0	1/47,000	Ss-5 (NS)	0.7	1/67,000	Ss-5 (EW)	0.7	1/67,000	Ss-6	0.9	1/52,000	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$</th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.9</td><td>1/52,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.7</td><td>1/67,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.8</td><td>1/59,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.0</td><td>1/47,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.7</td><td>1/67,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.7</td><td>1/67,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>1.2</td><td>1/39,000</td></tr> </tbody> </table>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$	Ss-1	0.9	1/52,000	Ss-2	0.7	1/67,000	Ss-3	0.8	1/59,000	Ss-4	1.0	1/47,000	Ss-5 (NS)	0.7	1/67,000	Ss-5 (EW)	0.7	1/67,000	Ss-6	1.2	1/39,000	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$</th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.9</td><td>1/52,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.7</td><td>1/67,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.8</td><td>1/59,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.0</td><td>1/47,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.7</td><td>1/67,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.7</td><td>1/67,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>1.2</td><td>1/39,000</td></tr> </tbody> </table>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$	Ss-1	0.9	1/52,000	Ss-2	0.7	1/67,000	Ss-3	0.8	1/59,000	Ss-4	1.0	1/47,000	Ss-5 (NS)	0.7	1/67,000	Ss-5 (EW)	0.7	1/67,000	Ss-6	1.2	1/39,000
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.9	1/52,000																																																																																															
Ss-2	0.7	1/67,000																																																																																															
Ss-3	0.8	1/59,000																																																																																															
Ss-4	1.0	1/47,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.7	1/67,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.7	1/67,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.9	1/52,000																																																																																															
Ss-2	0.7	1/67,000																																																																																															
Ss-3	0.8	1/59,000																																																																																															
Ss-4	1.0	1/47,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.7	1/67,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.7	1/67,000																																																																																															
Ss-6	0.9	1/52,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.9	1/52,000																																																																																															
Ss-2	0.7	1/67,000																																																																																															
Ss-3	0.8	1/59,000																																																																																															
Ss-4	1.0	1/47,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.7	1/67,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.7	1/67,000																																																																																															
Ss-6	1.2	1/39,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.9	1/52,000																																																																																															
Ss-2	0.7	1/67,000																																																																																															
Ss-3	0.8	1/59,000																																																																																															
Ss-4	1.0	1/47,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.7	1/67,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.7	1/67,000																																																																																															
Ss-6	1.2	1/39,000																																																																																															
(記号の説明) 	(記号の説明) 	(記号の説明) 	(記号の説明) 																																																																																														

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青: 当初申請書で記載を変更した箇所
 赤: 前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑: 今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考																																																																																													
第7.6.3.2表 (2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{DK}-X_{DK}'$ 断面)																																																																																																	
第7.6.3.2表 (2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{DK}-X_{DK}'$ 断面)	第7.6.3.2表 (2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{DK}-X_{DK}'$ 断面)	第7.6.3.2表 (2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{DK}-X_{DK}'$ 断面)	第7.6.3.2表 (2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{DK}-X_{DK}'$ 断面)	B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映																																																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$</th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.6</td><td>1/25,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.2</td><td>1/74,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.4</td><td>1/37,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>0.5</td><td>1/30,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.5</td><td>1/30,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.6</td><td>1/25,000</td></tr> </tbody> </table>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$		Ss-1	0.6	1/25,000	Ss-2	0.2	1/74,000	Ss-3	0.4	1/37,000	Ss-4	0.5	1/30,000	Ss-5 (NS)	0.5	1/30,000	Ss-5 (EW)	0.6	1/25,000	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$</th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.6</td><td>1/25,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.2</td><td>1/74,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.4</td><td>1/37,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>0.5</td><td>1/30,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.5</td><td>1/30,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.6</td><td>1/25,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid blue;"><td>Ss-6</td><td>0.5</td><td>1/30,000</td></tr> </tbody> </table>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	Ss-1	0.6	1/25,000	Ss-2	0.2	1/74,000	Ss-3	0.4	1/37,000	Ss-4	0.5	1/30,000	Ss-5 (NS)	0.5	1/30,000	Ss-5 (EW)	0.6	1/25,000	Ss-6	0.5	1/30,000	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$</th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.6</td><td>1/25,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.2</td><td>1/74,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.4</td><td>1/37,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>0.5</td><td>1/30,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.5</td><td>1/30,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.6</td><td>1/25,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>0.5</td><td>1/30,000</td></tr> </tbody> </table>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	Ss-1	0.6	1/25,000	Ss-2	0.2	1/74,000	Ss-3	0.4	1/37,000	Ss-4	0.5	1/30,000	Ss-5 (NS)	0.5	1/30,000	Ss-5 (EW)	0.6	1/25,000	Ss-6	0.5	1/30,000	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$</th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.6</td><td>1/25,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.2</td><td>1/74,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.4</td><td>1/37,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>0.5</td><td>1/30,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.5</td><td>1/30,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.6</td><td>1/25,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>0.5</td><td>1/30,000</td></tr> </tbody> </table>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	Ss-1	0.6	1/25,000	Ss-2	0.2	1/74,000	Ss-3	0.4	1/37,000	Ss-4	0.5	1/30,000	Ss-5 (NS)	0.5	1/30,000	Ss-5 (EW)	0.6	1/25,000	Ss-6	0.5	1/30,000
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.6	1/25,000																																																																																															
Ss-2	0.2	1/74,000																																																																																															
Ss-3	0.4	1/37,000																																																																																															
Ss-4	0.5	1/30,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.5	1/30,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.6	1/25,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.6	1/25,000																																																																																															
Ss-2	0.2	1/74,000																																																																																															
Ss-3	0.4	1/37,000																																																																																															
Ss-4	0.5	1/30,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.5	1/30,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.6	1/25,000																																																																																															
Ss-6	0.5	1/30,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.6	1/25,000																																																																																															
Ss-2	0.2	1/74,000																																																																																															
Ss-3	0.4	1/37,000																																																																																															
Ss-4	0.5	1/30,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.5	1/30,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.6	1/25,000																																																																																															
Ss-6	0.5	1/30,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.6	1/25,000																																																																																															
Ss-2	0.2	1/74,000																																																																																															
Ss-3	0.4	1/37,000																																																																																															
Ss-4	0.5	1/30,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.5	1/30,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.6	1/25,000																																																																																															
Ss-6	0.5	1/30,000																																																																																															
(記号の説明) 	(記号の説明) 	(記号の説明) 	(記号の説明) 																																																																																														

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)			当初申請書 (令和3年8月23日申請)			前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)			今回補正申請書 (案)			備考
第7.6.3.2表 (3) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_{DK}-Y_{DK}'$ 断面)												
第7.6.3.2表 (3) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_{DK}-Y_{DK}'$ 断面)			第7.6.3.2表 (3) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_{DK}-Y_{DK}'$ 断面)			第7.6.3.2表 (3) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_{DK}-Y_{DK}'$ 断面)			第7.6.3.2表 (3) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($Y_{DK}-Y_{DK}'$ 断面)			B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$	
Ss-1	0.6	1/23,000	Ss-1	0.6	1/23,000	Ss-1	0.6	1/23,000	Ss-1	0.6	1/23,000	
Ss-2	0.2	1/68,000	Ss-2	0.2	1/68,000	Ss-2	0.2	1/68,000	Ss-2	0.2	1/68,000	
Ss-3	0.5	1/27,000	Ss-3	0.5	1/27,000	Ss-3	0.5	1/27,000	Ss-3	0.5	1/27,000	
Ss-4	0.6	1/23,000	Ss-4	0.6	1/23,000	Ss-4	0.6	1/23,000	Ss-4	0.6	1/23,000	
Ss-5 (NS)	0.5	1/27,000	Ss-5 (NS)	0.5	1/27,000	Ss-5 (NS)	0.5	1/27,000	Ss-5 (NS)	0.5	1/27,000	
Ss-5 (EW)	0.5	1/27,000	Ss-5 (EW)	0.5	1/27,000	Ss-5 (EW)	0.5	1/27,000	Ss-5 (EW)	0.5	1/27,000	
Ss-6	0.5	1/27,000	Ss-6	0.5	1/27,000	Ss-6	0.5	1/27,000	Ss-6	0.5	1/27,000	
(記号の説明)			(記号の説明)			(記号の説明)			(記号の説明)			

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考	
第7.6.7.1表 (1) すべり安全率 ($X_{SC}-X_{SC}'$ 断面) (その1)					
				B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映	
第7.6.7.1表 (2) すべり安全率 ($X_{SC}-X_{SC}'$ 断面) (その2)					
					B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映
第7.6.7.1表 (3) すべり安全率 (Y_S-Y_S' 断面) (その1)					
				B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映	
第7.6.7.1表 (4) すべり安全率 (Y_S-Y_S' 断面) (その2)					
				B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

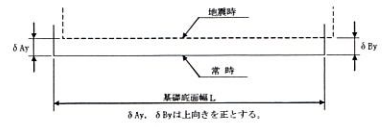
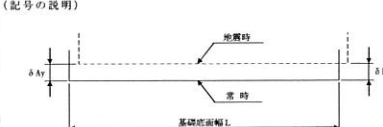
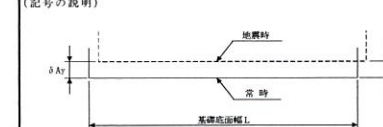
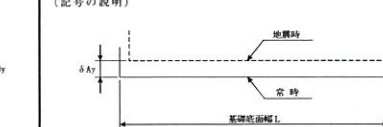
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考																																																																																													
第7.6.7.2表 (1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{SC}-X_{SC}'$ 断面)																																																																																																	
<p>第7.6.7.2表 (1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{SC}-X_{SC}'$ 断面)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$</th> <th>最大傾斜 $\delta Ay - \delta By / L$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>1.2</td><td>1/51,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.4</td><td>1/154,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.9</td><td>1/68,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.3</td><td>1/47,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>1.0</td><td>1/62,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.8</td><td>1/77,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $ \delta Ay - \delta By / L$	Ss-1	1.2	1/51,000	Ss-2	0.4	1/154,000	Ss-3	0.9	1/68,000	Ss-4	1.3	1/47,000	Ss-5 (NS)	1.0	1/62,000	Ss-5 (EW)	0.8	1/77,000	<p>第7.6.7.2表 (1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{SC}-X_{SC}'$ 断面)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$</th> <th>最大傾斜 $\delta Ay - \delta By / L$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>1.2</td><td>1/51,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.4</td><td>1/154,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.9</td><td>1/68,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.3</td><td>1/47,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>1.0</td><td>1/62,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.8</td><td>1/77,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid blue;"><td>Ss-6</td><td>1.3</td><td>1/47,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $ \delta Ay - \delta By / L$	Ss-1	1.2	1/51,000	Ss-2	0.4	1/154,000	Ss-3	0.9	1/68,000	Ss-4	1.3	1/47,000	Ss-5 (NS)	1.0	1/62,000	Ss-5 (EW)	0.8	1/77,000	Ss-6	1.3	1/47,000	<p>第7.6.7.2表 (1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{SC}-X_{SC}'$ 断面)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$</th> <th>最大傾斜 $\delta Ay - \delta By / L$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>1.2</td><td>1/51,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.4</td><td>1/154,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.9</td><td>1/68,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.3</td><td>1/47,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>1.0</td><td>1/62,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.8</td><td>1/77,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>1.3</td><td>1/47,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $ \delta Ay - \delta By / L$	Ss-1	1.2	1/51,000	Ss-2	0.4	1/154,000	Ss-3	0.9	1/68,000	Ss-4	1.3	1/47,000	Ss-5 (NS)	1.0	1/62,000	Ss-5 (EW)	0.8	1/77,000	Ss-6	1.3	1/47,000	<p>第7.6.7.2表 (1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜 ($X_{SC}-X_{SC}'$ 断面)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta Ay - \delta By$</th> <th>最大傾斜 $\delta Ay - \delta By / L$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>1.2</td><td>1/51,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.4</td><td>1/154,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.9</td><td>1/68,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.3</td><td>1/47,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>1.0</td><td>1/62,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.8</td><td>1/77,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>1.3</td><td>1/47,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明)</p>	地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $ \delta Ay - \delta By / L$	Ss-1	1.2	1/51,000	Ss-2	0.4	1/154,000	Ss-3	0.9	1/68,000	Ss-4	1.3	1/47,000	Ss-5 (NS)	1.0	1/62,000	Ss-5 (EW)	0.8	1/77,000	Ss-6	1.3	1/47,000	<p>B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映</p>
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $ \delta Ay - \delta By / L$																																																																																															
Ss-1	1.2	1/51,000																																																																																															
Ss-2	0.4	1/154,000																																																																																															
Ss-3	0.9	1/68,000																																																																																															
Ss-4	1.3	1/47,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	1.0	1/62,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.8	1/77,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $ \delta Ay - \delta By / L$																																																																																															
Ss-1	1.2	1/51,000																																																																																															
Ss-2	0.4	1/154,000																																																																																															
Ss-3	0.9	1/68,000																																																																																															
Ss-4	1.3	1/47,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	1.0	1/62,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.8	1/77,000																																																																																															
Ss-6	1.3	1/47,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $ \delta Ay - \delta By / L$																																																																																															
Ss-1	1.2	1/51,000																																																																																															
Ss-2	0.4	1/154,000																																																																																															
Ss-3	0.9	1/68,000																																																																																															
Ss-4	1.3	1/47,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	1.0	1/62,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.8	1/77,000																																																																																															
Ss-6	1.3	1/47,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $ \delta Ay - \delta By / L$																																																																																															
Ss-1	1.2	1/51,000																																																																																															
Ss-2	0.4	1/154,000																																																																																															
Ss-3	0.9	1/68,000																																																																																															
Ss-4	1.3	1/47,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	1.0	1/62,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.8	1/77,000																																																																																															
Ss-6	1.3	1/47,000																																																																																															

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考																																																																																													
第7.6.7.2表（2） 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜（ $Y_s - Y_{s'}$ 断面）																																																																																																	
<p>第7.6.7.2表（2） 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜（$Y_s - Y_{s'}$ 断面）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$ </th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.9</td><td>1/53,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.7</td><td>1/68,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.9</td><td>1/53,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.2</td><td>1/40,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.8</td><td>1/60,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.7</td><td>1/68,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明) </p>	地震動	最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$	Ss-1	0.9	1/53,000	Ss-2	0.7	1/68,000	Ss-3	0.9	1/53,000	Ss-4	1.2	1/40,000	Ss-5 (NS)	0.8	1/60,000	Ss-5 (EW)	0.7	1/68,000	<p>第7.6.7.2表（2） 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜（$Y_s - Y_{s'}$ 断面）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$ </th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.9</td><td>1/53,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.7</td><td>1/68,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.9</td><td>1/53,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.2</td><td>1/40,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.8</td><td>1/60,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.7</td><td>1/68,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid blue;"><td>Ss-6</td><td>1.0</td><td>1/48,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明) </p>	地震動	最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$	Ss-1	0.9	1/53,000	Ss-2	0.7	1/68,000	Ss-3	0.9	1/53,000	Ss-4	1.2	1/40,000	Ss-5 (NS)	0.8	1/60,000	Ss-5 (EW)	0.7	1/68,000	Ss-6	1.0	1/48,000	<p>第7.6.7.2表（2） 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜（$Y_s - Y_{s'}$ 断面）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$ </th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.9</td><td>1/53,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.7</td><td>1/68,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.9</td><td>1/53,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.2</td><td>1/40,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.8</td><td>1/60,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.7</td><td>1/68,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>1.1</td><td>1/43,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明) </p>	地震動	最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$	Ss-1	0.9	1/53,000	Ss-2	0.7	1/68,000	Ss-3	0.9	1/53,000	Ss-4	1.2	1/40,000	Ss-5 (NS)	0.8	1/60,000	Ss-5 (EW)	0.7	1/68,000	Ss-6	1.1	1/43,000	<p>第7.6.7.2表（2） 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜（$Y_s - Y_{s'}$ 断面）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$ </th> <th>最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Ss-1</td><td>0.9</td><td>1/53,000</td></tr> <tr><td>Ss-2</td><td>0.7</td><td>1/68,000</td></tr> <tr><td>Ss-3</td><td>0.9</td><td>1/53,000</td></tr> <tr><td>Ss-4</td><td>1.2</td><td>1/40,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (NS)</td><td>0.8</td><td>1/60,000</td></tr> <tr><td>Ss-5 (EW)</td><td>0.7</td><td>1/68,000</td></tr> <tr style="border: 2px solid red;"><td>Ss-6</td><td>1.1</td><td>1/43,000</td></tr> </tbody> </table> <p>(記号の説明) </p>	地震動	最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$	Ss-1	0.9	1/53,000	Ss-2	0.7	1/68,000	Ss-3	0.9	1/53,000	Ss-4	1.2	1/40,000	Ss-5 (NS)	0.8	1/60,000	Ss-5 (EW)	0.7	1/68,000	Ss-6	1.1	1/43,000	<p>B-1 確定した Ss-6による 評価結果の 反映</p>
地震動	最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.9	1/53,000																																																																																															
Ss-2	0.7	1/68,000																																																																																															
Ss-3	0.9	1/53,000																																																																																															
Ss-4	1.2	1/40,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.8	1/60,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.7	1/68,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.9	1/53,000																																																																																															
Ss-2	0.7	1/68,000																																																																																															
Ss-3	0.9	1/53,000																																																																																															
Ss-4	1.2	1/40,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.8	1/60,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.7	1/68,000																																																																																															
Ss-6	1.0	1/48,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.9	1/53,000																																																																																															
Ss-2	0.7	1/68,000																																																																																															
Ss-3	0.9	1/53,000																																																																																															
Ss-4	1.2	1/40,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.8	1/60,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.7	1/68,000																																																																																															
Ss-6	1.1	1/43,000																																																																																															
地震動	最大相対変位 (mm) $\delta A_y - \delta B_y$	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$																																																																																															
Ss-1	0.9	1/53,000																																																																																															
Ss-2	0.7	1/68,000																																																																																															
Ss-3	0.9	1/53,000																																																																																															
Ss-4	1.2	1/40,000																																																																																															
Ss-5 (NS)	0.8	1/60,000																																																																																															
Ss-5 (EW)	0.7	1/68,000																																																																																															
Ss-6	1.1	1/43,000																																																																																															

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

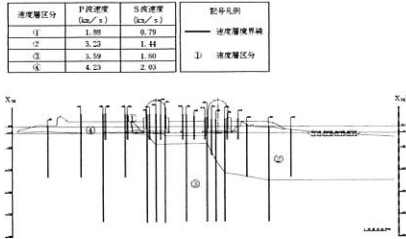
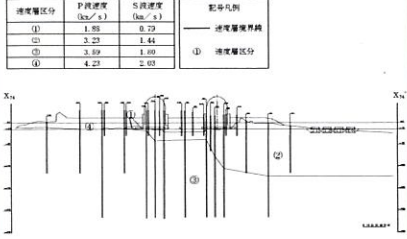
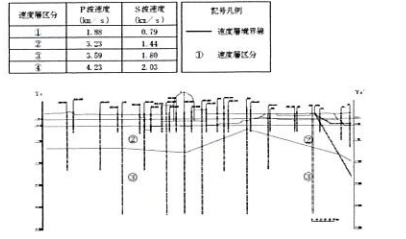
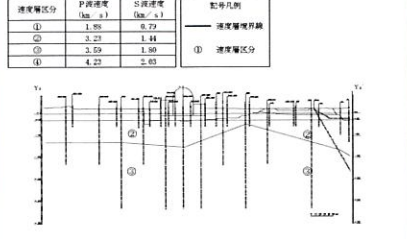
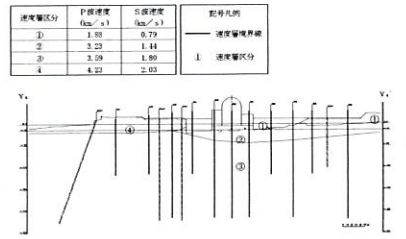
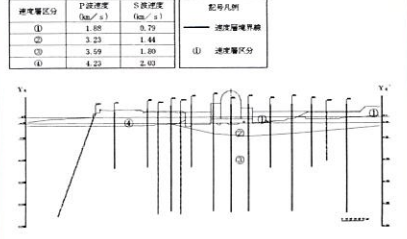
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
				
第7.6.1.1図 解析断面位置図				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

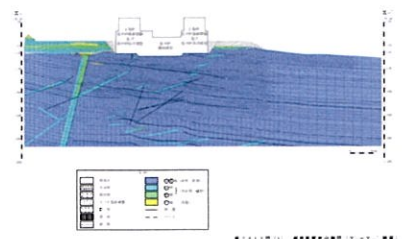
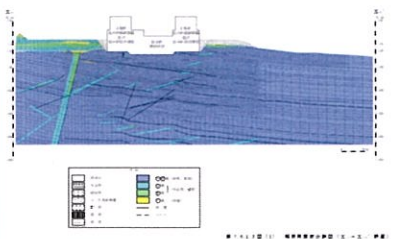
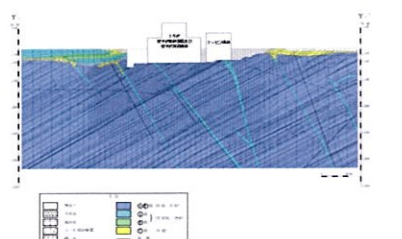
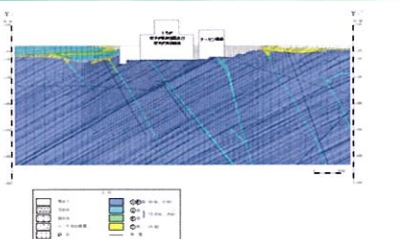
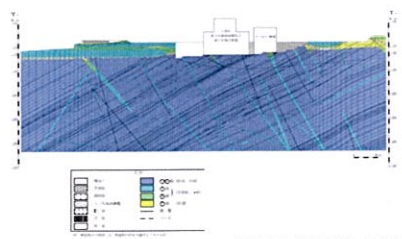
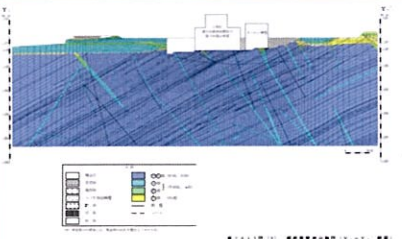
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
 <p>第7.6.1.2図(1) 速度層断面図 (X₃₄-X₃₄' 断面)</p>			 <p>第7.6.1.2図(1) 速度層断面図 (X₃₄-X₃₄' 断面)</p>	
第7.6.1.2図(1) 速度層断面図 (X ₃₄ -X ₃₄ ' 断面)				
 <p>第7.6.1.2図(2) 速度層断面図 (Y₃-Y₃' 断面)</p>			 <p>第7.6.1.2図(2) 速度層断面図 (Y₃-Y₃' 断面)</p>	
第7.6.1.2図(2) 速度層断面図 (Y ₃ -Y ₃ ' 断面)				
 <p>第7.6.1.2図(3) 速度層断面図 (Y₄-Y₄' 断面)</p>			 <p>第7.6.1.2図(3) 速度層断面図 (Y₄-Y₄' 断面)</p>	
第7.6.1.2図(3) 速度層断面図 (Y ₄ -Y ₄ ' 断面)				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

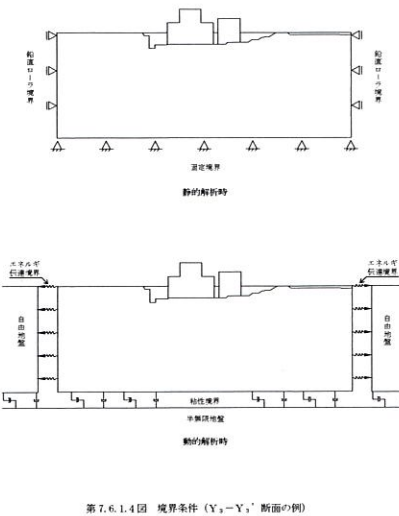
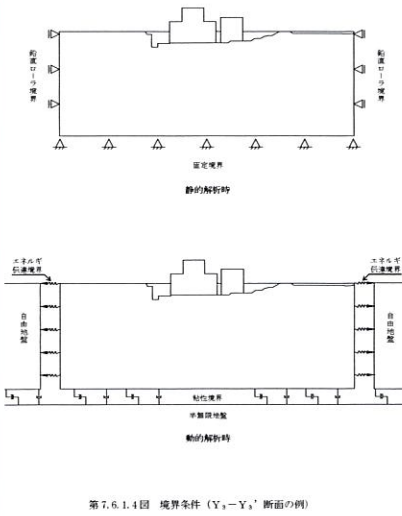
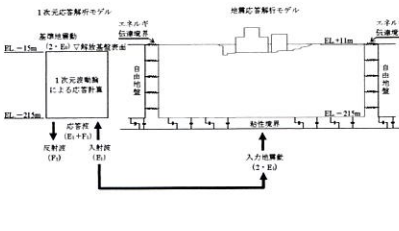
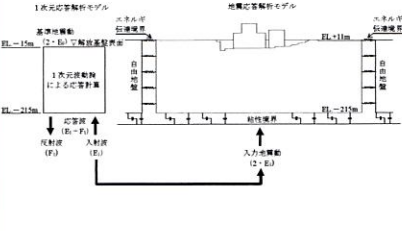
添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
				
第7.6.1.3図(1) 解析用要素分割図 (X ₃₄ -X ₃₄ ' 断面)				
				
第7.6.1.3図(2) 解析用要素分割図 (Y ₃ -Y ₃ ' 断面)				
				
第7.6.1.3図(3) 解析用要素分割図 (Y ₄ -Y ₄ ' 断面)				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

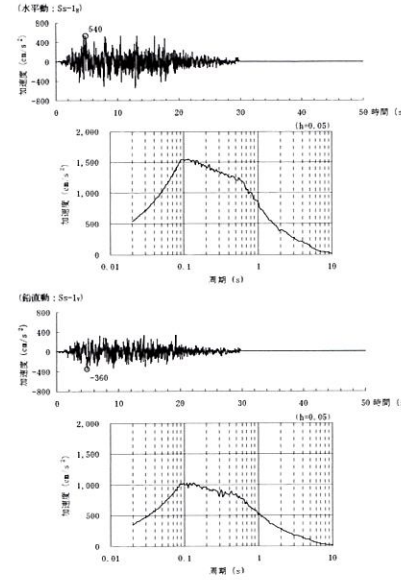
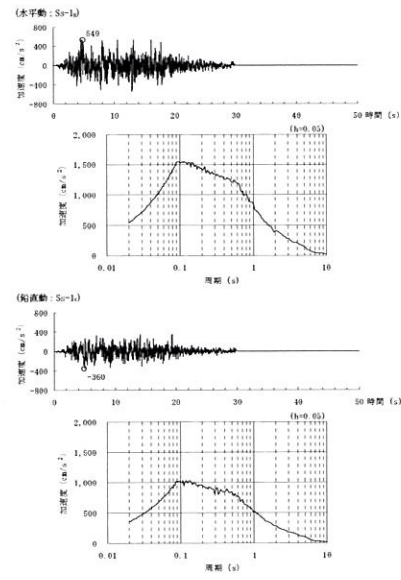
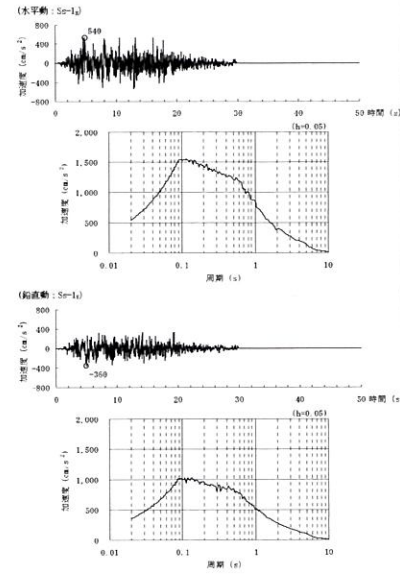
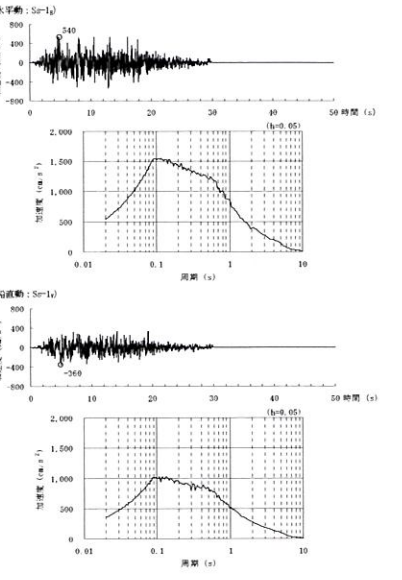
添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
 <p>第7.6.1.4図 境界条件 (Y₃-Y₃' 断面の例)</p>			 <p>第7.6.1.4図 境界条件 (Y₃-Y₃' 断面の例)</p>	
第7.6.1.4図 境界条件 (Y ₃ -Y ₃ ' 断面の例)				
 <p>第7.6.1.5図 入力地震動の考え方 (Y₃-Y₃' 断面の例)</p>			 <p>第7.6.1.5図 入力地震動の考え方 (Y₃-Y₃' 断面の例)</p>	
第7.6.1.5図 入力地震動の考え方 (Y ₃ -Y ₃ ' 断面の例)				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

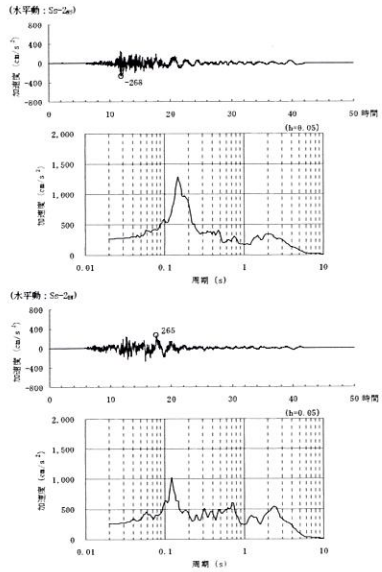
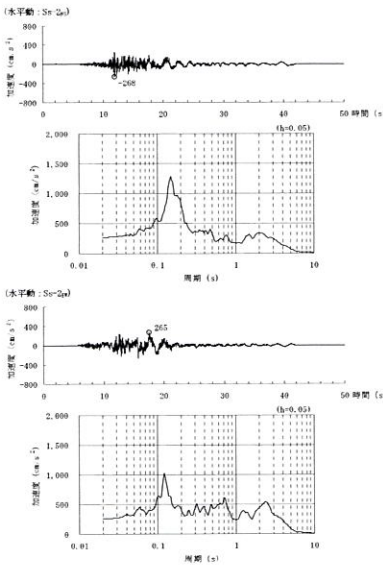
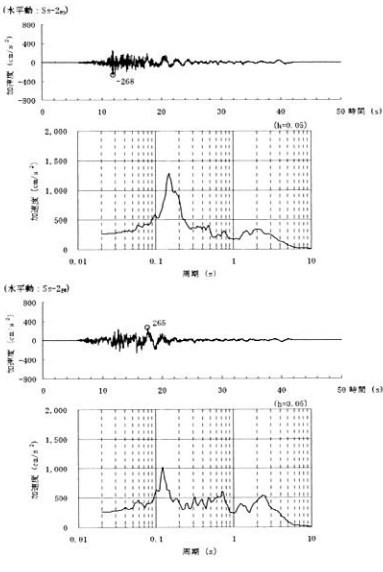
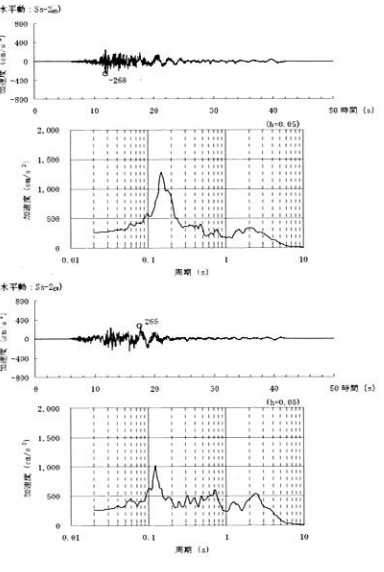
添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
 <p>第7.6.1.6図(1) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-1)</p>	 <p>第7.6.1.6図(1) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-1)</p>	 <p>第7.6.1.6図(1) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-1)</p>	 <p>第7.6.1.6図(1) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-1)</p>	
<p>第7.6.1.6図(1) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-1)</p>				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青: 当初申請書で記載を変更した箇所
 赤: 前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑: 今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

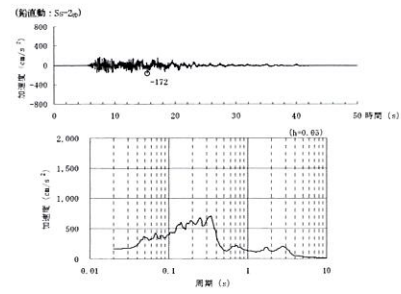
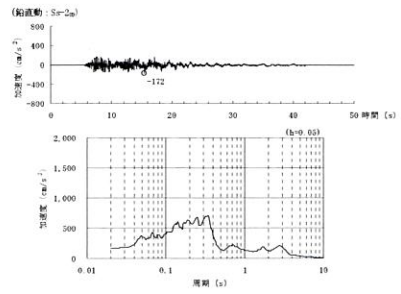
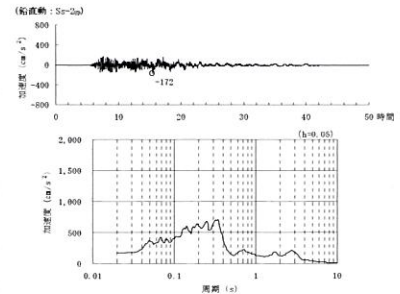
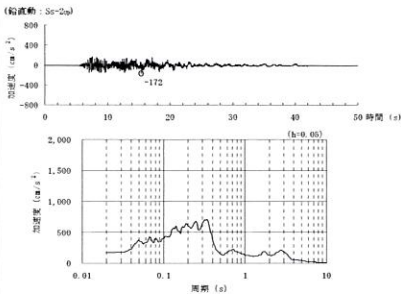
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
 <p>第7.6.1.6図(2) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-2、水平動)</p>	 <p>第7.6.1.6図(2) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-2、水平動)</p>	 <p>第7.6.1.6図(2) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-2、水平動)</p>	 <p>第7.6.1.6図(2) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-2、水平動)</p>	
<p>第7.6.1.6図(2) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-2、水平動)</p>				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

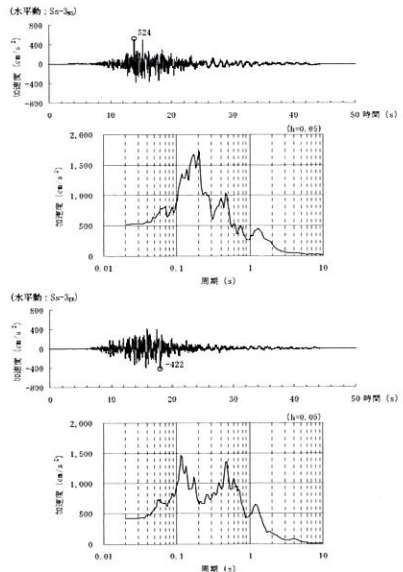
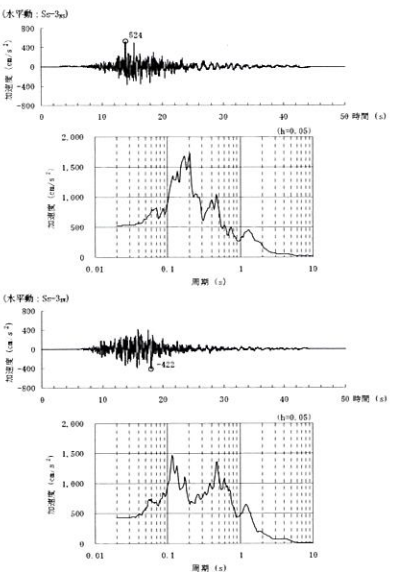
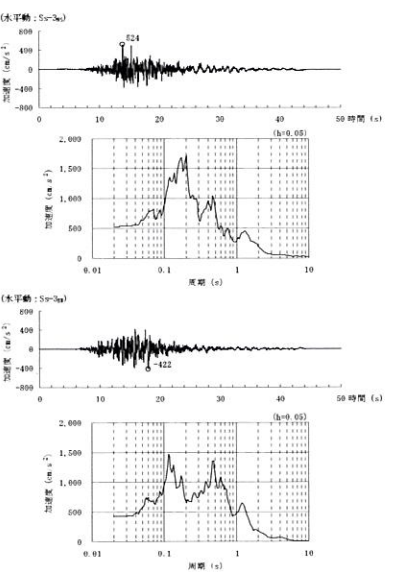
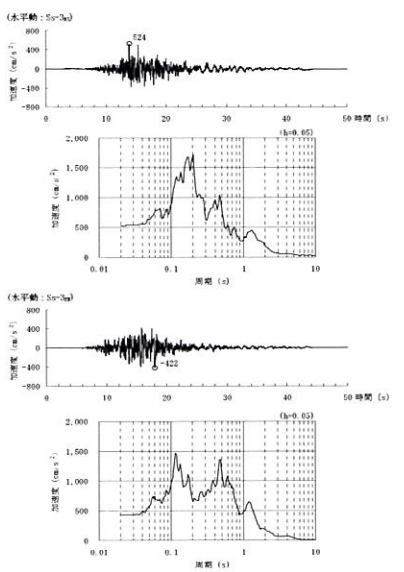
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
 <p>第7.6.1.6図(3) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-2、鉛直動)</p>	 <p>第7.6.1.6図(3) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-2、鉛直動)</p>	 <p>第7.6.1.6図(3) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-2、鉛直動)</p>	 <p>第7.6.1.6図(3) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-2、鉛直動)</p>	
第7.6.1.6図(3) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-2、鉛直動)				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

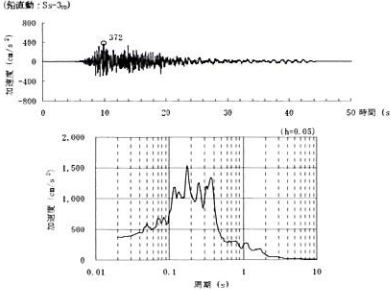
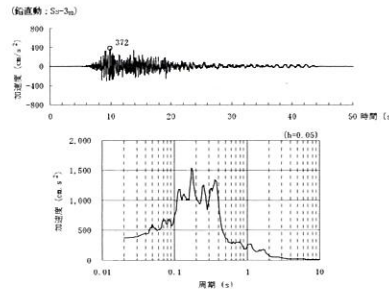
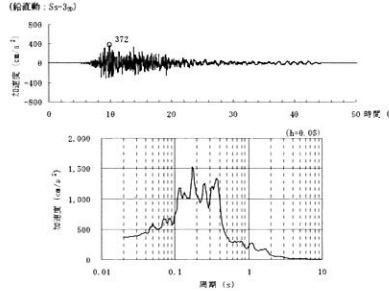
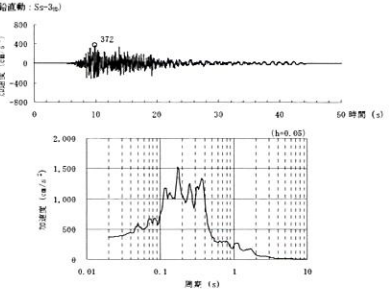
添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
 <p>第7.6.1.6図(4) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-3、水平動)</p>	 <p>第7.6.1.6図(4) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-3、水平動)</p>	 <p>第7.6.1.6図(4) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-3、水平動)</p>	 <p>第7.6.1.6図(4) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-3、水平動)</p>	
<p>第7.6.1.6図(4) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-3、水平動)</p>				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

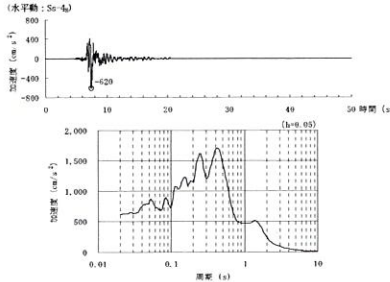
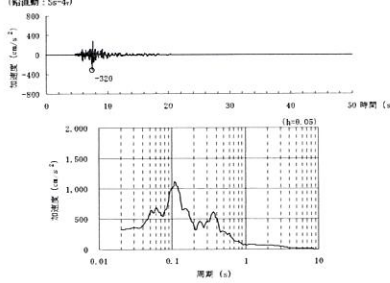
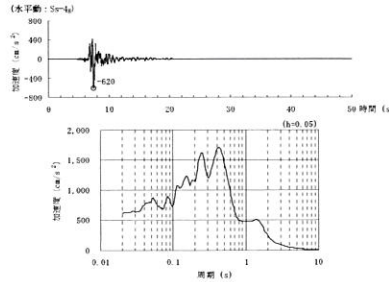
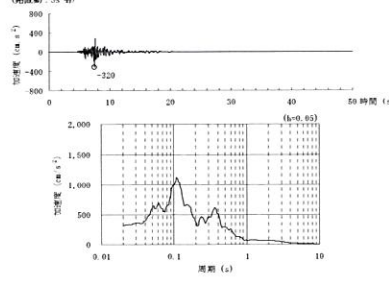
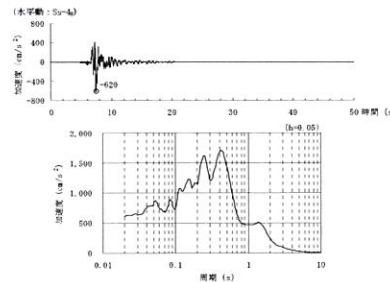
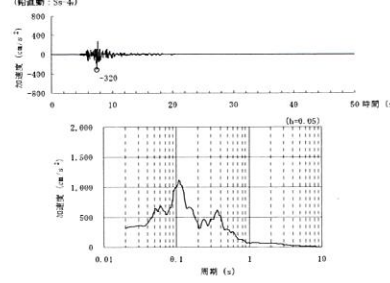
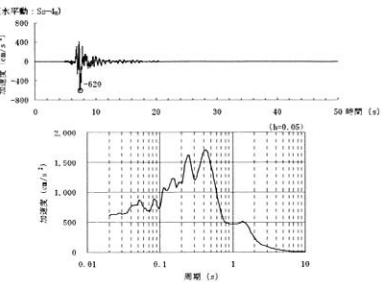
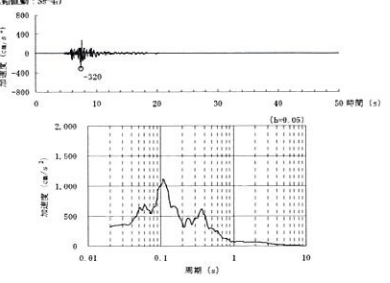
添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
 <p>第7.6.1.6図(5) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル（Ss-3、鉛直動）</p>	 <p>第7.6.1.6図(5) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル（Ss-3、鉛直動）</p>	 <p>第7.6.1.6図(5) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル（Ss-3、鉛直動）</p>	 <p>第7.6.1.6図(5) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル（Ss-3、鉛直動）</p>	
<p>第7.6.1.6図(5) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル（Ss-3、鉛直動）</p>				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
 <p>(水平動：Ss-4)</p>  <p>(回転動：Ss-4)</p> <p>第7.6.1.6図(6) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-4)</p>	 <p>(水平動：Ss-4)</p>  <p>(回転動：Ss-4)</p> <p>第7.6.1.6図(6) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-4)</p>	 <p>(水平動：Ss-4)</p>  <p>(回転動：Ss-4)</p> <p>第7.6.1.6図(6) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-4)</p>	 <p>(水平動：Ss-4)</p>  <p>(回転動：Ss-4)</p> <p>第7.6.1.6図(6) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-4)</p>	
<p>第7.6.1.6図(6) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-4)</p>				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

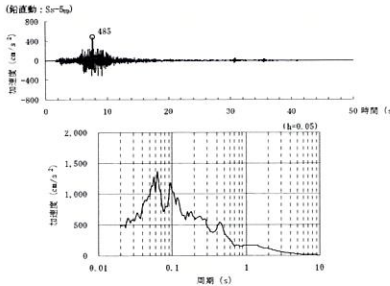
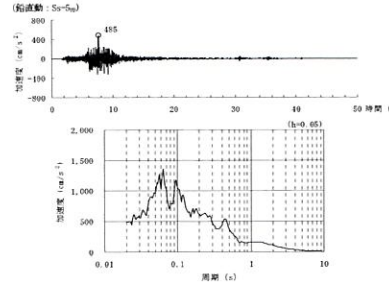
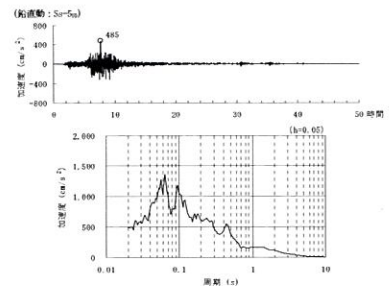
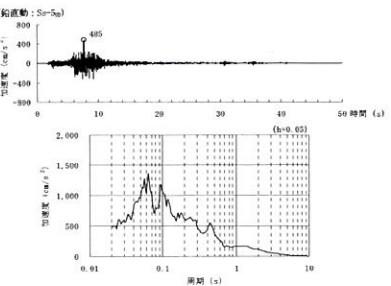
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
<p>第7.6.1.6図(7) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-5、水平動)</p>	<p>第7.6.1.6図(7) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-5、水平動)</p>	<p>第7.6.1.6図(7) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-5、水平動)</p>	<p>第7.6.1.6図(7) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-5、水平動)</p>	
<p>第7.6.1.6図(7) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-5、水平動)</p>				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

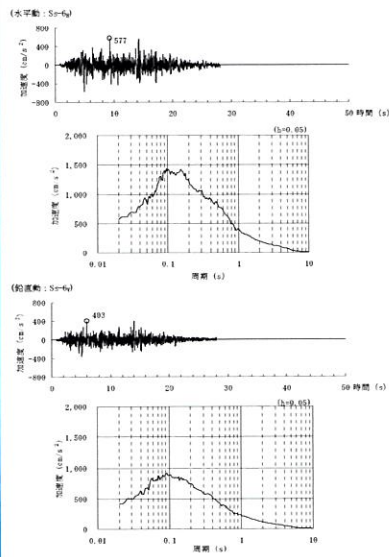
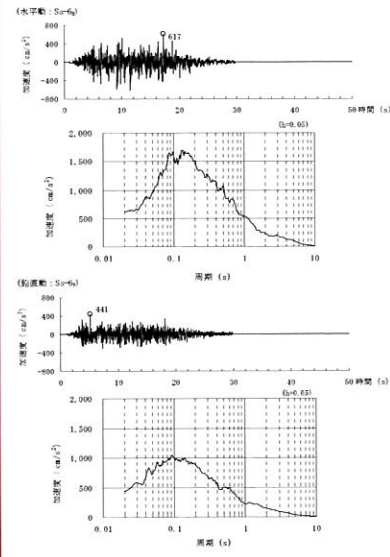
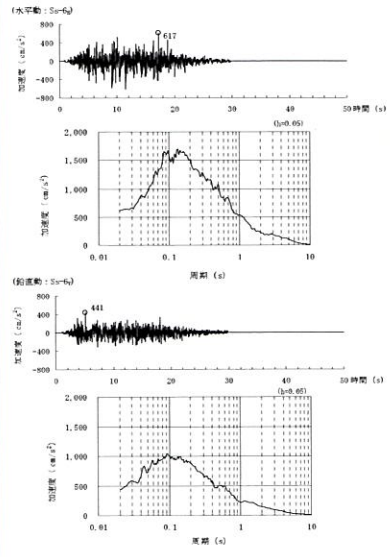
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
 <p>第7.6.1.6図(8) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss=5、鉛直動)</p>	 <p>第7.6.1.6図(8) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss=5、鉛直動)</p>	 <p>第7.6.1.6図(8) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss=5、鉛直動)</p>	 <p>第7.6.1.6図(8) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss=5、鉛直動)</p>	
<p>第7.6.1.6図(8) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss=5、鉛直動)</p>				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所



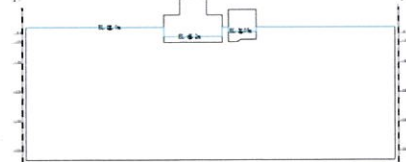
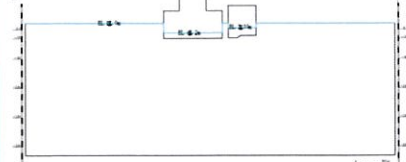


添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
	 <p>第7.6.1.6図 (9) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-6)</p>	 <p>第7.6.1.6図 (9) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-6)</p>	 <p>第7.6.1.6図 (9) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-6)</p>	<p>B-1 確定した Ss-6の反映</p>
<p>第7.6.1.6図 (9) 基準地震動の時刻歴波形と加速度応答スペクトル (Ss-6)</p>				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
 <p>第7.6.1.7図(1) 解析用地下水位 (X₃₄-X₃₄'断面)</p>			 <p>第7.6.1.7図(1) 解析用地下水位 (X₃₄-X₃₄'断面)</p>	
第7.6.1.7図(1) 解析用地下水位 (X ₃₄ -X ₃₄ '断面)				
 <p>第7.6.1.7図(2) 解析用地下水位 (Y₃-Y₃'断面)</p>			 <p>第7.6.1.7図(2) 解析用地下水位 (Y₃-Y₃'断面)</p>	
第7.6.1.7図(2) 解析用地下水位 (Y ₃ -Y ₃ '断面)				
 <p>第7.6.1.7図(3) 解析用地下水位 (Y₄-Y₄'断面)</p>			 <p>第7.6.1.7図(3) 解析用地下水位 (Y₄-Y₄'断面)</p>	
第7.6.1.7図(3) 解析用地下水位 (Y ₄ -Y ₄ '断面)				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
<p>第7.6.1.8図 基礎地盤の安定性評価フロー</p>			<p>第7.6.1.8図 基礎地盤の安定性評価フロー</p>	
<p>第7.6.1.8図 基礎地盤の安定性評価フロー</p>				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

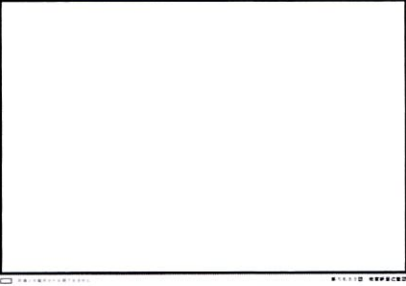

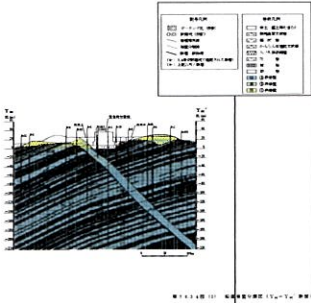
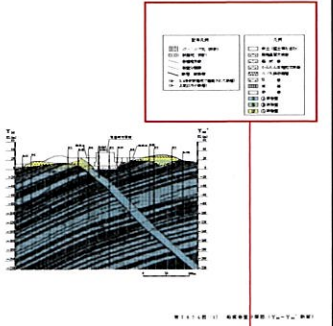
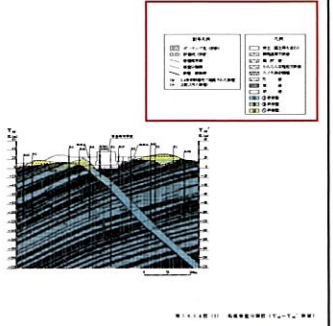
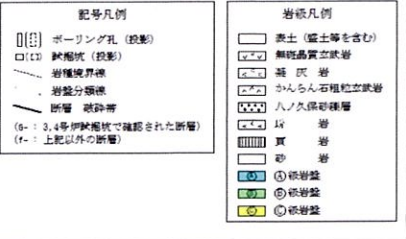
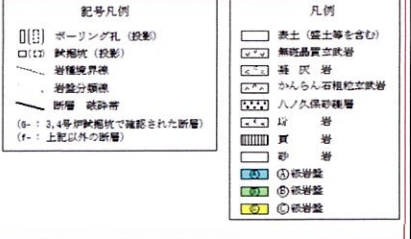

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
第7.6.2.1図 周辺斜面位置図				
第7.6.3.1図 対象施設配置図				
第7.6.3.2図 ボーリング調査位置図				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青: 当初申請書で記載を変更した箇所
 赤: 前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑: 今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

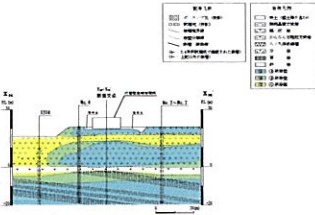
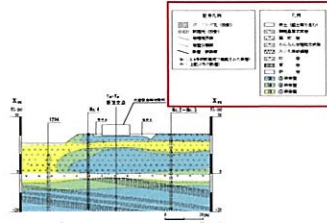
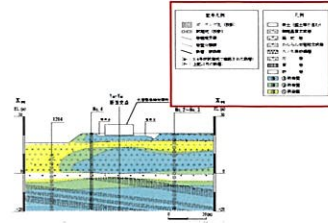
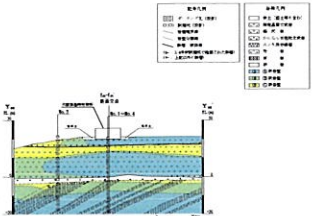
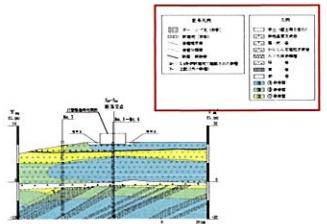
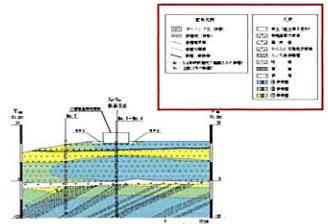
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
				
第7.6.3.3図 地質断面位置図				
				B-2 図面凡例の 修正
第7.6.3.4図(1) 鉛直岩盤分類図 (Y _M -Y _M ' 断面)				
拡大 		拡大 	拡大 	

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

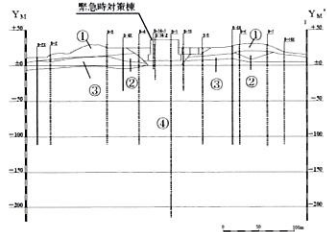
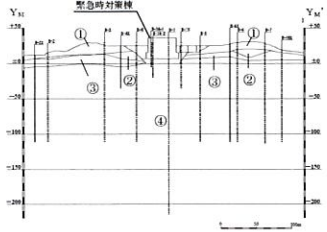
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
				<p>B-2 図面凡例の 修正</p>
<p>第7.6.3.4図(2) 鉛直岩盤分類図 (X_{DK}-X'_{DK}' 断面)</p>				
				<p>B-2 図面凡例の 修正</p>
<p>第7.6.3.4図(3) 鉛直岩盤分類図 (Y_{DK}-Y'_{DK}' 断面)</p>				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青: 当初申請書で記載を変更した箇所
 赤: 前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑: 今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

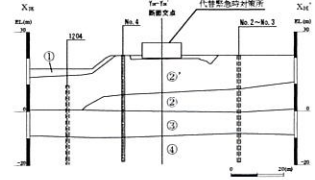
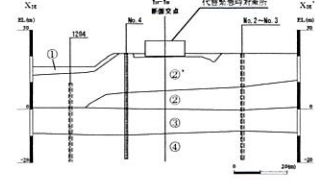
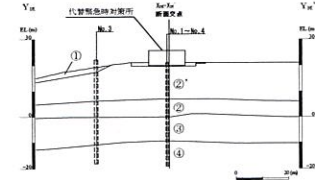
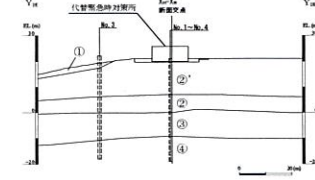
添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考																																
<table border="1" data-bbox="212 391 571 486"> <thead> <tr> <th>速度層区分</th> <th>P波速度 (km/s)</th> <th>S波速度 (km/s)</th> <th rowspan="5">記号凡例 — 速度層境界線 ① 速度層区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>0.92</td> <td>0.25</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>2.06</td> <td>0.84</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>2.22</td> <td>0.75</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>3.36</td> <td>1.62</td> </tr> </tbody> </table>  <p data-bbox="280 758 616 782">第7.6.3.5図 (1) 速度層断面図 (Y_M-Y_M' 断面)</p>	速度層区分	P波速度 (km/s)	S波速度 (km/s)	記号凡例 — 速度層境界線 ① 速度層区分	①	0.92	0.25	②	2.06	0.84	③	2.22	0.75	④	3.36	1.62			<table border="1" data-bbox="1478 391 1836 486"> <thead> <tr> <th>速度層区分</th> <th>P波速度 (km/s)</th> <th>S波速度 (km/s)</th> <th rowspan="5">記号凡例 — 速度層境界線 ① 速度層区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>0.92</td> <td>0.25</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>2.06</td> <td>0.84</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>2.22</td> <td>0.75</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>3.36</td> <td>1.62</td> </tr> </tbody> </table>  <p data-bbox="1545 758 1881 782">第7.6.3.5図 (1) 速度層断面図 (Y_M-Y_M' 断面)</p>	速度層区分	P波速度 (km/s)	S波速度 (km/s)	記号凡例 — 速度層境界線 ① 速度層区分	①	0.92	0.25	②	2.06	0.84	③	2.22	0.75	④	3.36	1.62	
速度層区分	P波速度 (km/s)	S波速度 (km/s)	記号凡例 — 速度層境界線 ① 速度層区分																																	
①	0.92	0.25																																		
②	2.06	0.84																																		
③	2.22	0.75																																		
④	3.36	1.62																																		
速度層区分	P波速度 (km/s)	S波速度 (km/s)	記号凡例 — 速度層境界線 ① 速度層区分																																	
①	0.92	0.25																																		
②	2.06	0.84																																		
③	2.22	0.75																																		
④	3.36	1.62																																		
<p>第7.6.3.5図 (1) 速度層断面図 (Y_M-Y_M' 断面)</p>																																				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

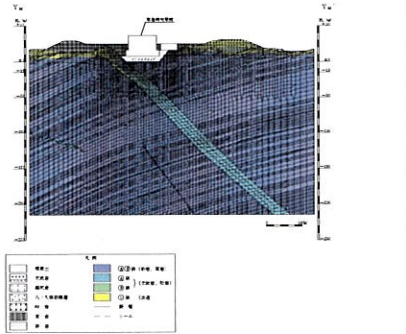
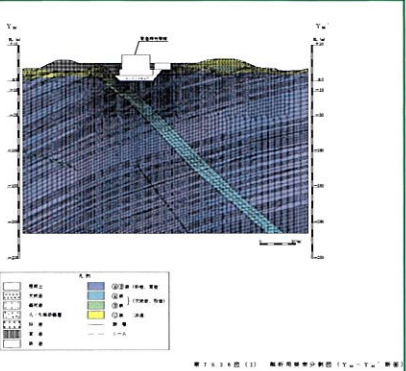
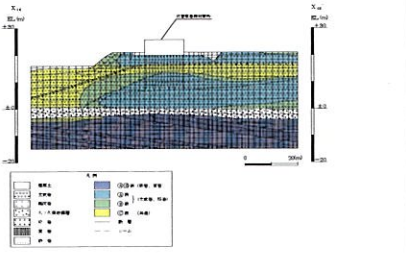
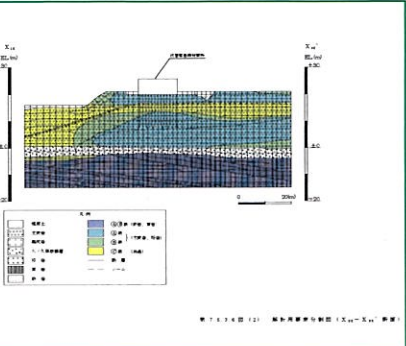
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考																																				
<table border="1" data-bbox="230 339 533 435"> <thead> <tr> <th>速度層区分</th> <th>P波速度 (km/s)</th> <th>S波速度 (km/s)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td>0.50</td><td>0.22</td></tr> <tr><td>②</td><td>1.20</td><td>0.56</td></tr> <tr><td>②'</td><td>3.67</td><td>1.51</td></tr> <tr><td>③</td><td>1.96</td><td>0.67</td></tr> <tr><td>④</td><td>2.91</td><td>1.33</td></tr> </tbody> </table>  <p data-bbox="286 651 577 671">第7.6.3.5図(2) 速度層断面図 (X_{DK}-X_{DK}' 断面)</p>	速度層区分	P波速度 (km/s)	S波速度 (km/s)	①	0.50	0.22	②	1.20	0.56	②'	3.67	1.51	③	1.96	0.67	④	2.91	1.33			<table border="1" data-bbox="1478 339 1780 435"> <thead> <tr> <th>速度層区分</th> <th>P波速度 (km/s)</th> <th>S波速度 (km/s)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td>0.50</td><td>0.22</td></tr> <tr><td>②'</td><td>1.20</td><td>0.56</td></tr> <tr><td>②</td><td>3.67</td><td>1.51</td></tr> <tr><td>③</td><td>1.96</td><td>0.67</td></tr> <tr><td>④</td><td>2.91</td><td>1.33</td></tr> </tbody> </table>  <p data-bbox="1534 651 1825 671">第7.6.3.5図(2) 速度層断面図 (X_{DK}-X_{DK}' 断面)</p>	速度層区分	P波速度 (km/s)	S波速度 (km/s)	①	0.50	0.22	②'	1.20	0.56	②	3.67	1.51	③	1.96	0.67	④	2.91	1.33	
速度層区分	P波速度 (km/s)	S波速度 (km/s)																																						
①	0.50	0.22																																						
②	1.20	0.56																																						
②'	3.67	1.51																																						
③	1.96	0.67																																						
④	2.91	1.33																																						
速度層区分	P波速度 (km/s)	S波速度 (km/s)																																						
①	0.50	0.22																																						
②'	1.20	0.56																																						
②	3.67	1.51																																						
③	1.96	0.67																																						
④	2.91	1.33																																						
第7.6.3.5図(2) 速度層断面図 (X _{DK} -X _{DK} ' 断面)																																								
<table border="1" data-bbox="230 866 533 962"> <thead> <tr> <th>速度層区分</th> <th>P波速度 (km/s)</th> <th>S波速度 (km/s)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td>0.50</td><td>0.22</td></tr> <tr><td>②'</td><td>1.20</td><td>0.56</td></tr> <tr><td>②</td><td>3.67</td><td>1.51</td></tr> <tr><td>③</td><td>1.96</td><td>0.67</td></tr> <tr><td>④</td><td>2.91</td><td>1.33</td></tr> </tbody> </table>  <p data-bbox="286 1193 577 1214">第7.6.3.5図(3) 速度層断面図 (Y_{DK}-Y_{DK}' 断面)</p>	速度層区分	P波速度 (km/s)	S波速度 (km/s)	①	0.50	0.22	②'	1.20	0.56	②	3.67	1.51	③	1.96	0.67	④	2.91	1.33			<table border="1" data-bbox="1478 866 1780 962"> <thead> <tr> <th>速度層区分</th> <th>P波速度 (km/s)</th> <th>S波速度 (km/s)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td>0.50</td><td>0.22</td></tr> <tr><td>②'</td><td>1.20</td><td>0.56</td></tr> <tr><td>②</td><td>3.67</td><td>1.51</td></tr> <tr><td>③</td><td>1.96</td><td>0.67</td></tr> <tr><td>④</td><td>2.91</td><td>1.33</td></tr> </tbody> </table>  <p data-bbox="1534 1193 1825 1214">第7.6.3.5図(3) 速度層断面図 (Y_{DK}-Y_{DK}' 断面)</p>	速度層区分	P波速度 (km/s)	S波速度 (km/s)	①	0.50	0.22	②'	1.20	0.56	②	3.67	1.51	③	1.96	0.67	④	2.91	1.33	
速度層区分	P波速度 (km/s)	S波速度 (km/s)																																						
①	0.50	0.22																																						
②'	1.20	0.56																																						
②	3.67	1.51																																						
③	1.96	0.67																																						
④	2.91	1.33																																						
速度層区分	P波速度 (km/s)	S波速度 (km/s)																																						
①	0.50	0.22																																						
②'	1.20	0.56																																						
②	3.67	1.51																																						
③	1.96	0.67																																						
④	2.91	1.33																																						
第7.6.3.5図(3) 速度層断面図 (Y _{DK} -Y _{DK} ' 断面)																																								

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

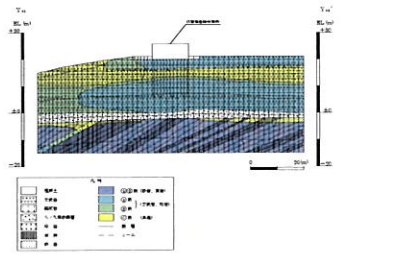
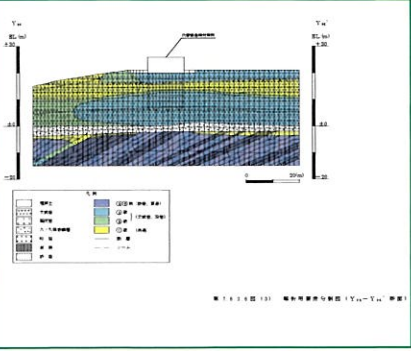
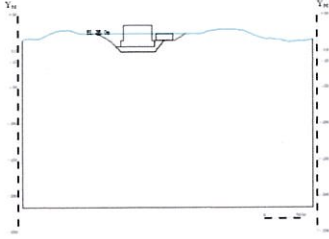
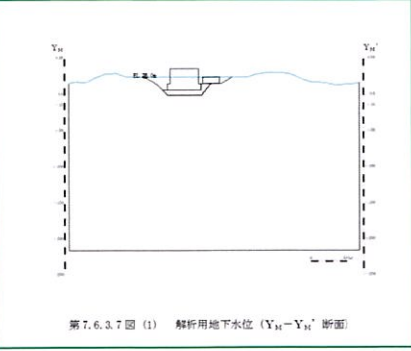
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
				
第7.6.3.6図（1） 解析用要素分割図（ $Y_M - Y_M'$ 断面）				
				
第7.6.3.6図（2） 解析用要素分割図（ $X_{DK} - X_{DK}'$ 断面）				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

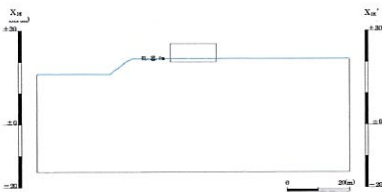
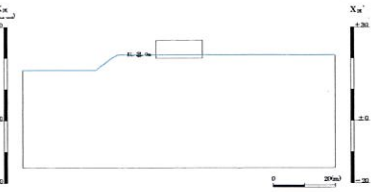
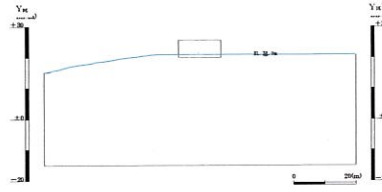
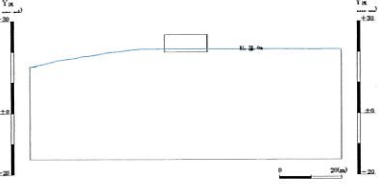
添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
 <p>第7.6.3.6図(3) 解析用要素分割図 (Y_{DK}-Y_{DK}'断面)</p>			 <p>第7.6.3.6図(3) 解析用要素分割図 (Y_{DK}-Y_{DK}'断面)</p>	
第7.6.3.6図(3) 解析用要素分割図 (Y _{DK} -Y _{DK} '断面)				
 <p>第7.6.3.7図(1) 解析用地下水位 (Y_M-Y_M'断面)</p>			 <p>第7.6.3.7図(1) 解析用地下水位 (Y_M-Y_M'断面)</p>	
第7.6.3.7図(1) 解析用地下水位 (Y _M -Y _M '断面)				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

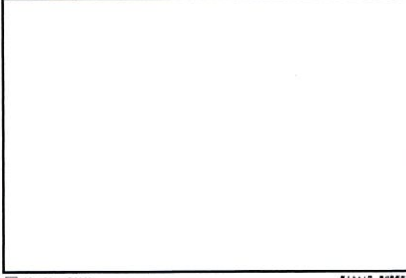
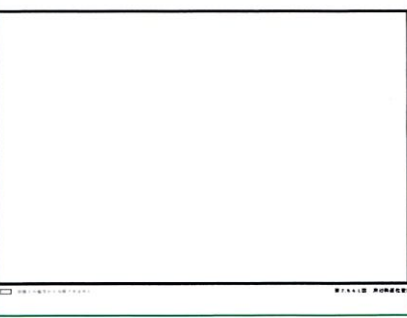
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
 <p>第7.6.3.7図(2) 解析用地下水位 (X_N-X_N' 断面)</p>			 <p>第7.6.3.7図(2) 解析用地下水位 (X_N-X_N' 断面)</p>	
<p>第7.6.3.7図(2) 解析用地下水位 (X_{DK}-X_{DK}' 断面)</p>				
 <p>第7.6.3.7図(3) 解析用地下水位 (Y_N-Y_N' 断面)</p>			 <p>第7.6.3.7図(3) 解析用地下水位 (Y_N-Y_N' 断面)</p>	
<p>第7.6.3.7図(3) 解析用地下水位 (Y_{DK}-Y_{DK}' 断面)</p>				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

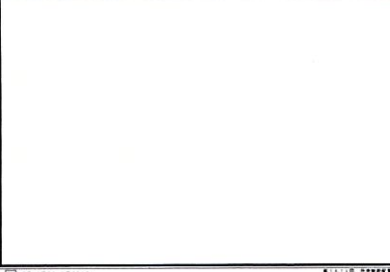



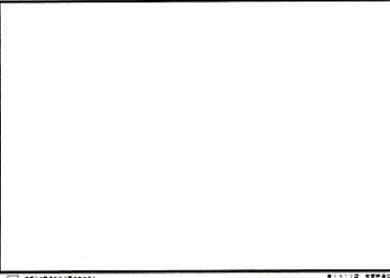

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
				
第7.6.4.1図 周辺斜面位置図				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

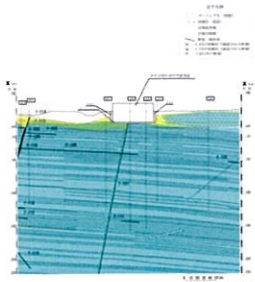
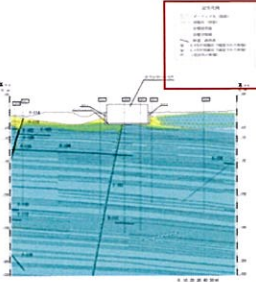
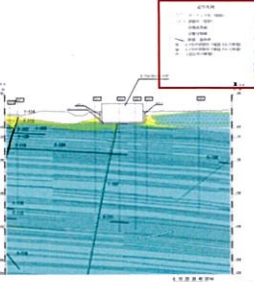
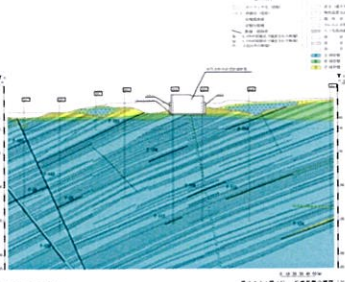
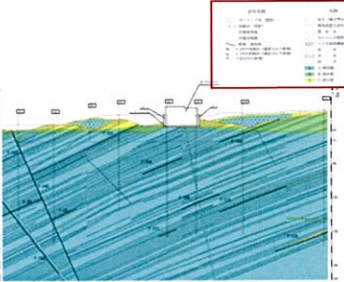
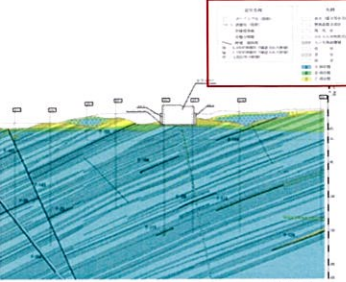
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
				
第7.6.7.1図 対象施設配置図				
				
第7.6.7.2図 ボーリング調査位置図				
				
第7.6.7.3図 地質断面位置図				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
				B-2 図面凡例の 修正
第7.6.7.4図（1）鉛直岩盤分類図（ $X_{SC}-X_{SC}'$ 断面）				
				B-2 図面凡例の 修正
第7.6.7.4図（2）鉛直岩盤分類図（ Y_S-Y_S' 断面）				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

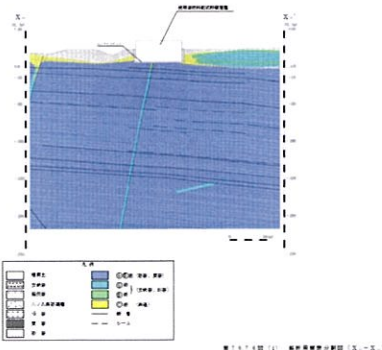
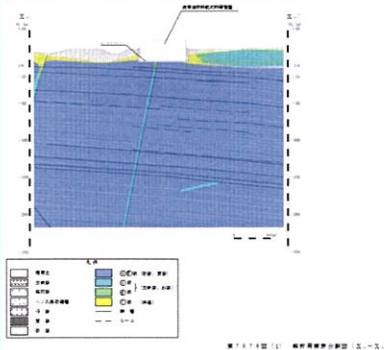
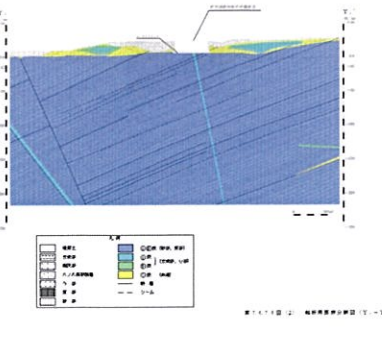
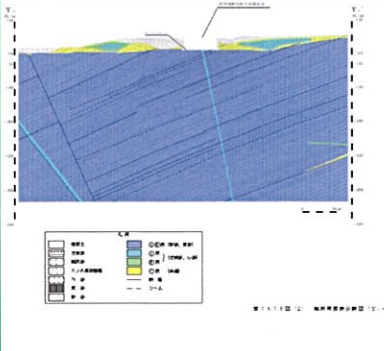
添付書類六 7. 6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
<p>第7.6.7.5図 (1) 速度層断面図 (X_{SC}-X'_{SC}' 断面)</p>			<p>第7.6.7.5図 (1) 速度層断面図 (X_{SC}-X'_{SC}' 断面)</p>	
第7.6.7.5図 (1) 速度層断面図 (X _{SC} -X' _{SC} ' 断面)				
<p>第7.6.7.5図 (2) 速度層断面図 (Y_S-Y'_S' 断面)</p> <p>□：防壁上の観点から公開できません。</p>			<p>第7.6.7.5図 (2) 速度層断面図 (Y_S-Y'_S' 断面)</p> <p>□：防壁上の観点から公開できません。</p>	
第7.6.7.5図 (2) 速度層断面図 (Y _S -Y' _S ' 断面)				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書（案）で記載を変更した箇所

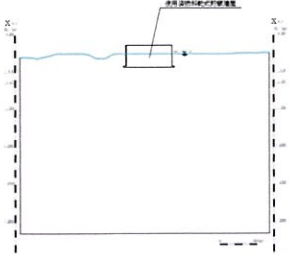
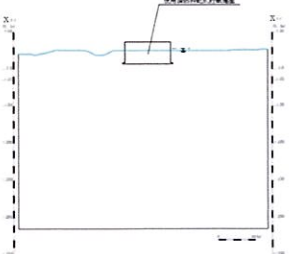
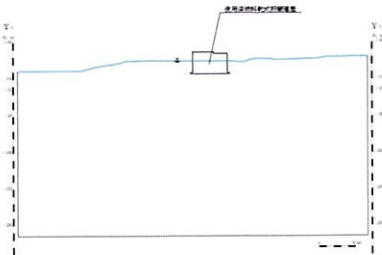
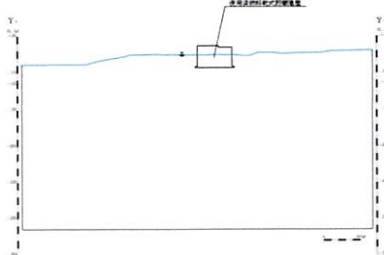
添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書（令和3年4月28日許可）	当初申請書（令和3年8月23日申請）	前回補正申請書（令和5年10月27日申請）	今回補正申請書（案）	備考
				
第7.6.7.6図（1） 解析用要素分割図（ $X_{SC}-X_{SC}'$ 断面）				
				
第7.6.7.6図（2） 解析用要素分割図（ Y_S-Y_S' 断面）				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書(案)	備考
 <p>第7.6.7.7図(1) 解析用地下水位 ($X_{Sc}-X_{Sc}'$ 断面)</p>			 <p>第7.6.7.7図(1) 解析用地下水位 ($X_{Sc}-X_{Sc}'$ 断面)</p>	
第7.6.7.7図(1) 解析用地下水位 ($X_{Sc}-X_{Sc}'$ 断面)				
 <p>第7.6.7.7図(2) 解析用地下水位 (Y_s-Y_s' 断面)</p>			 <p>第7.6.7.7図(2) 解析用地下水位 (Y_s-Y_s' 断面)</p>	
第7.6.7.7図(2) 解析用地下水位 (Y_s-Y_s' 断面)				

玄海原子力発電所3号炉及び4号炉 設置変更許可申請書 比較表
 (標準応答スペクトルを考慮した地震動評価を踏まえた基礎地盤及び周辺斜面の安定性)

青：当初申請書で記載を変更した箇所
 赤：前回補正申請書で記載を変更した箇所
 緑：今回補正申請書(案)で記載を変更した箇所

添付書類六 7.6 原子炉格納容器、原子炉周辺建屋等の基礎地盤及び周辺斜面の安定性

既許可申請書 (令和3年4月28日許可)	当初申請書 (令和3年8月23日申請)	前回補正申請書 (令和5年10月27日申請)	今回補正申請書 (案)	備考
				
第7.6.8.1図 周辺斜面位置図				